

丸亀市(仮称)みんなの劇場 管理運営・事業計画検討に 関するアンケート 報告書

調査主体:丸亀市

調査の概要

調査目的

香川県在住または香川県内を活動拠点としている文化芸術に関わる個人（実演家、創作者、技術者、制作者など）や事業所に関する基礎データを把握することで、丸亀市で建設準備中の（仮称）みんなの劇場の管理運営・事業計画検討に資するとともに、香川県の文化芸術の実態を把握する契機とする。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって受けている影響や、今後の活動の展望についても調査する。

調査対象

香川県在住または香川県内を活動拠点としている文化芸術に関わる個人（実演家、創作者、技術者、制作者など）や事業所。

調査方法

- QuestantによるWebアンケート及び手渡し、郵送による調査票
- 無記名による回答

調査期間

- ・2020年9月7日(月)から9月21日(月)まで

調査協力

- ・NPO法人アートNPOリンク

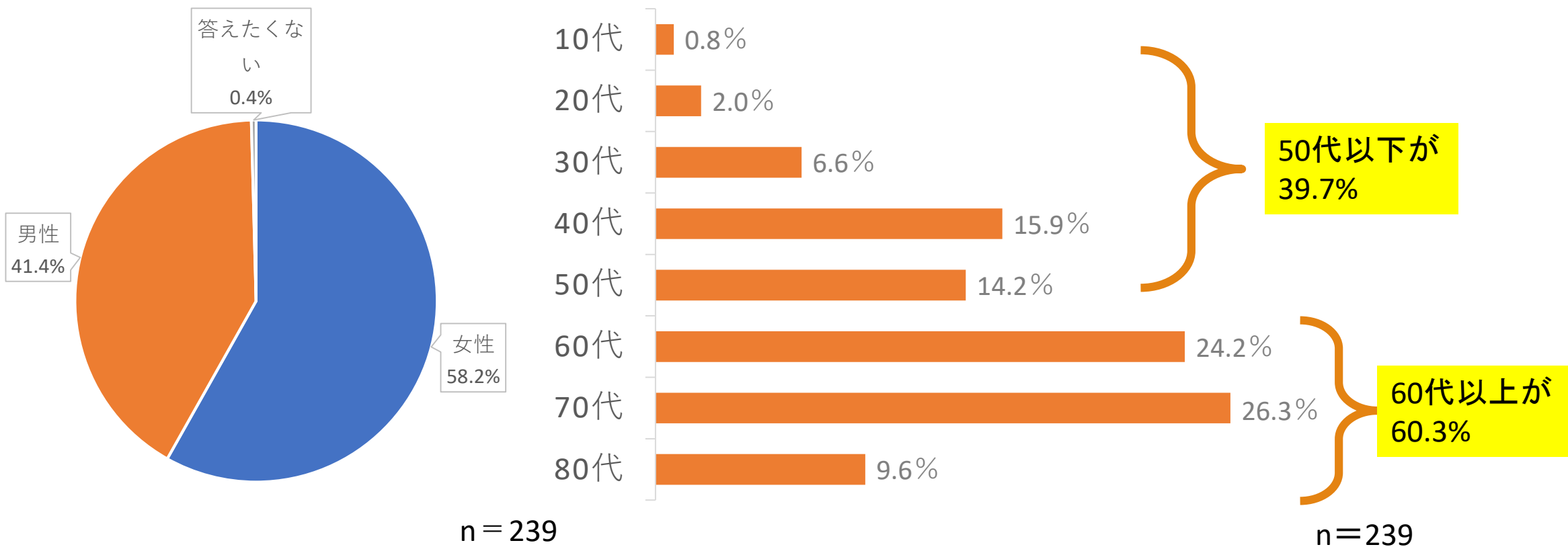
回答数

- ・有効回答数は合計295件(個人239件、事業所56件)

調査対象① 個人対象アンケート

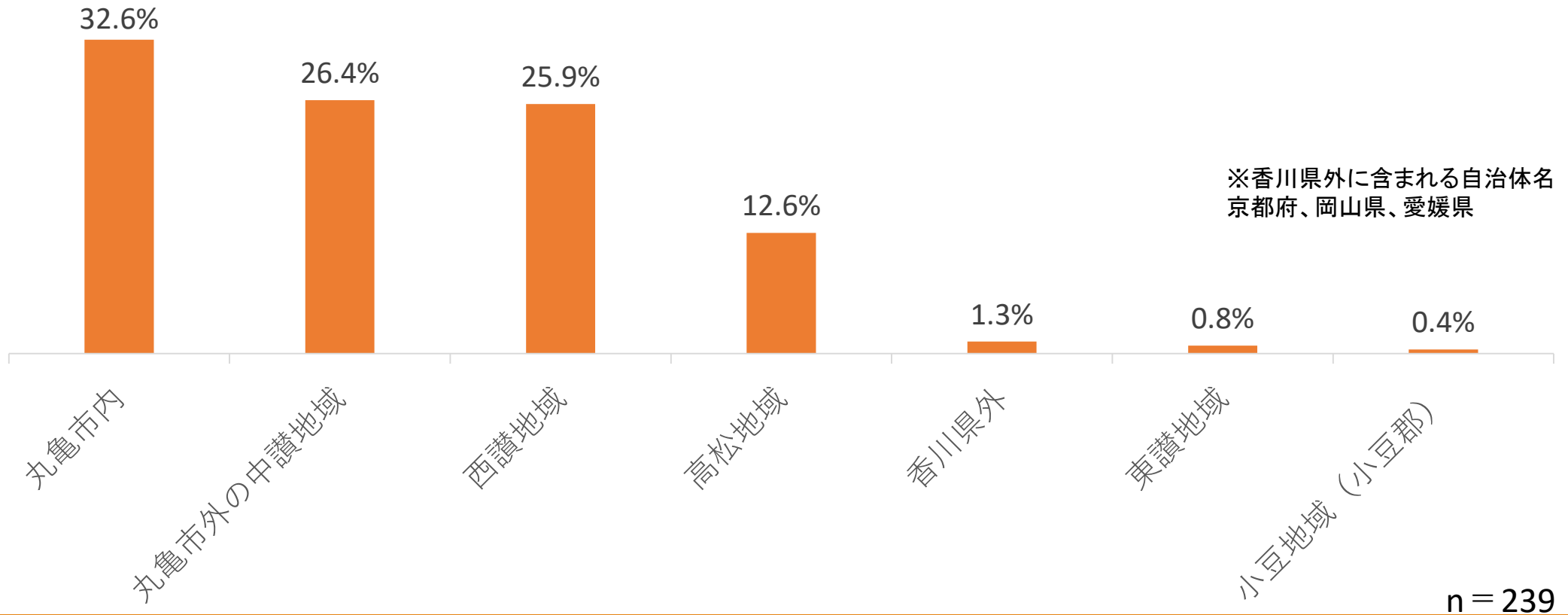
①個人対象アンケート 性別・年代

58.2%が女性、41.4%が男性。70代が最も多く、60代以上が約60%を占めた。



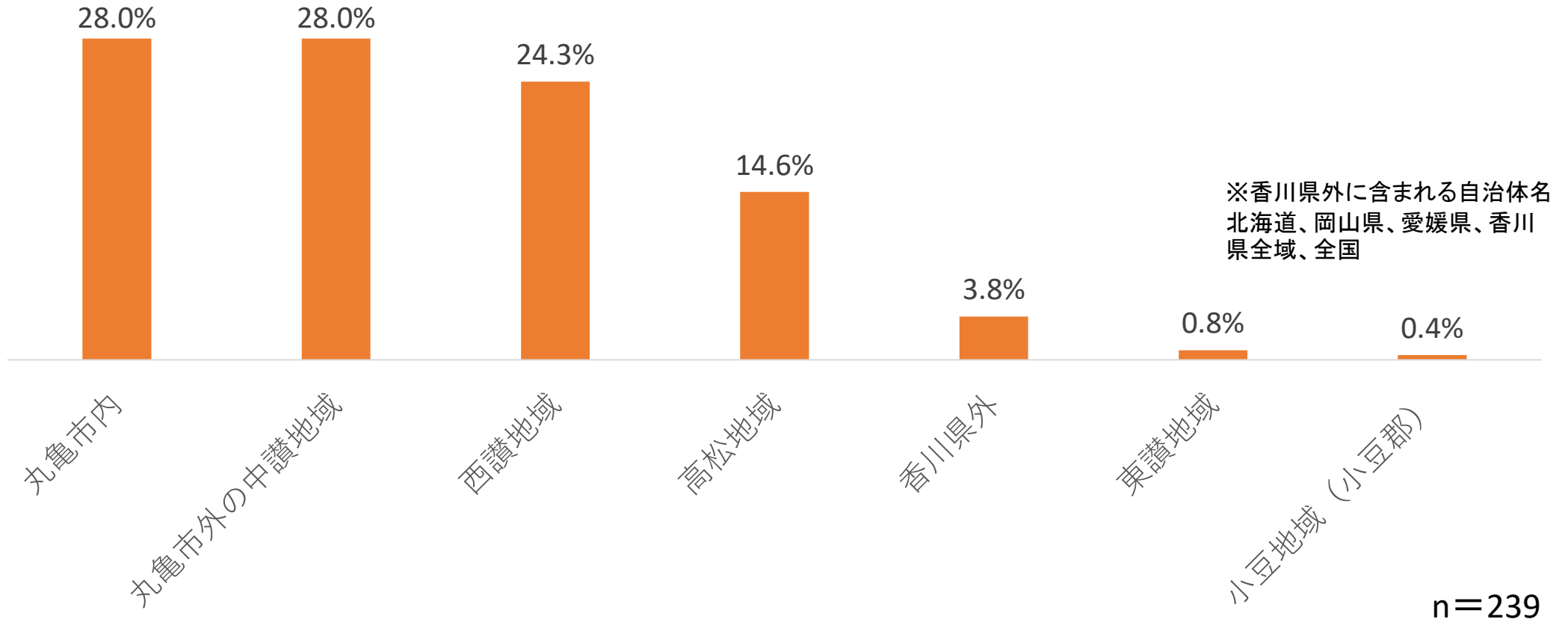
①個人対象アンケート 居住地

丸亀市内に限らず、県内・県外の多くの在住者より回答を得た。

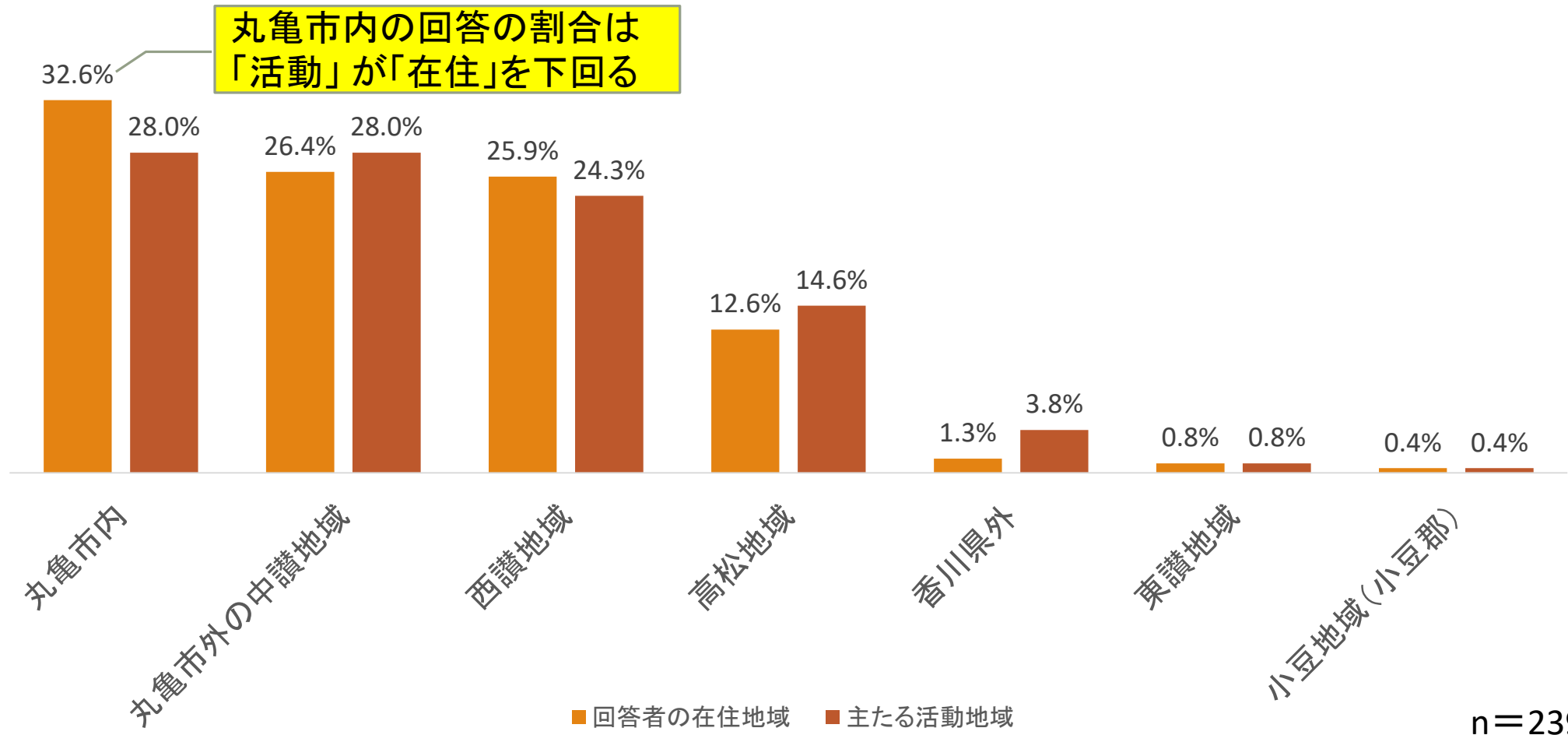


①個人対象アンケート 活動地

丸亀市内に限らず、多くの県内・県外での活動者より回答を得た。
※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。

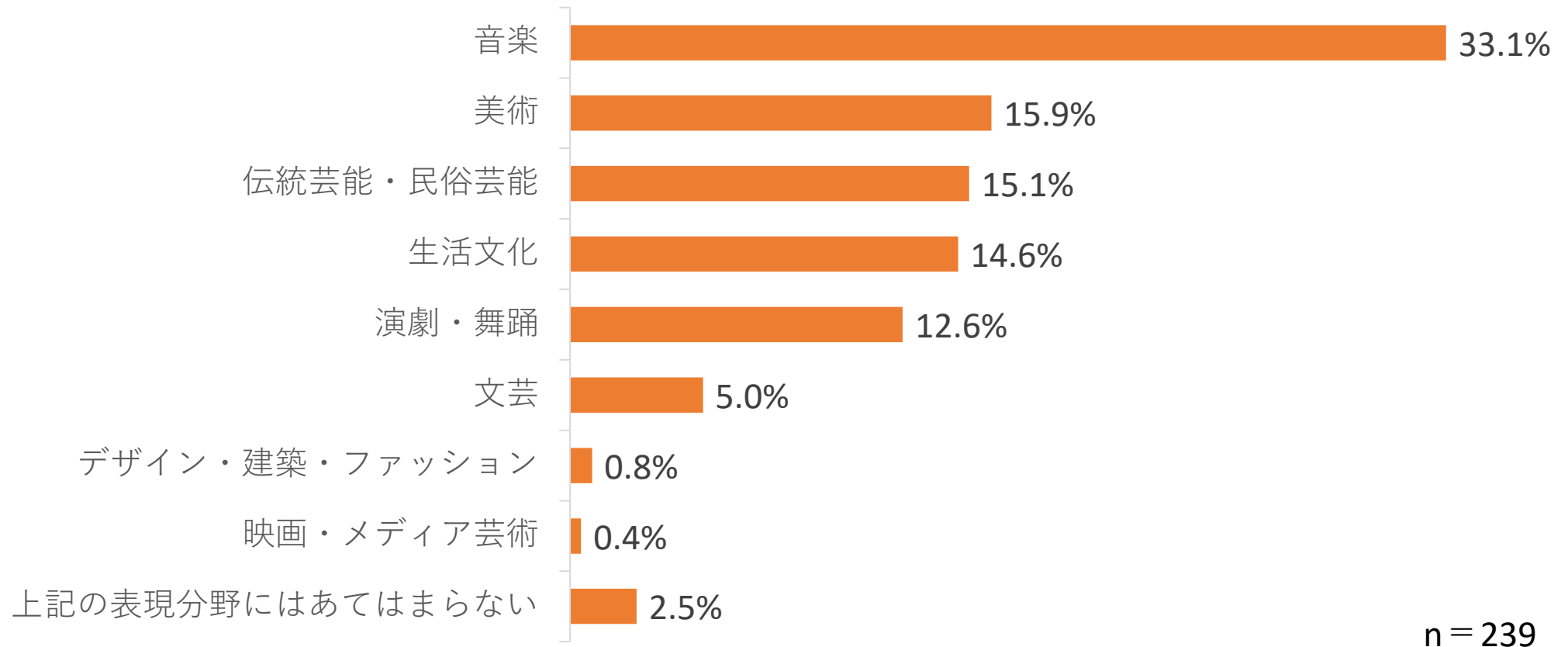


①個人対象アンケート 在住地域と活動地域の比較



①個人対象アンケート 文化芸術活動の主たる表現分野

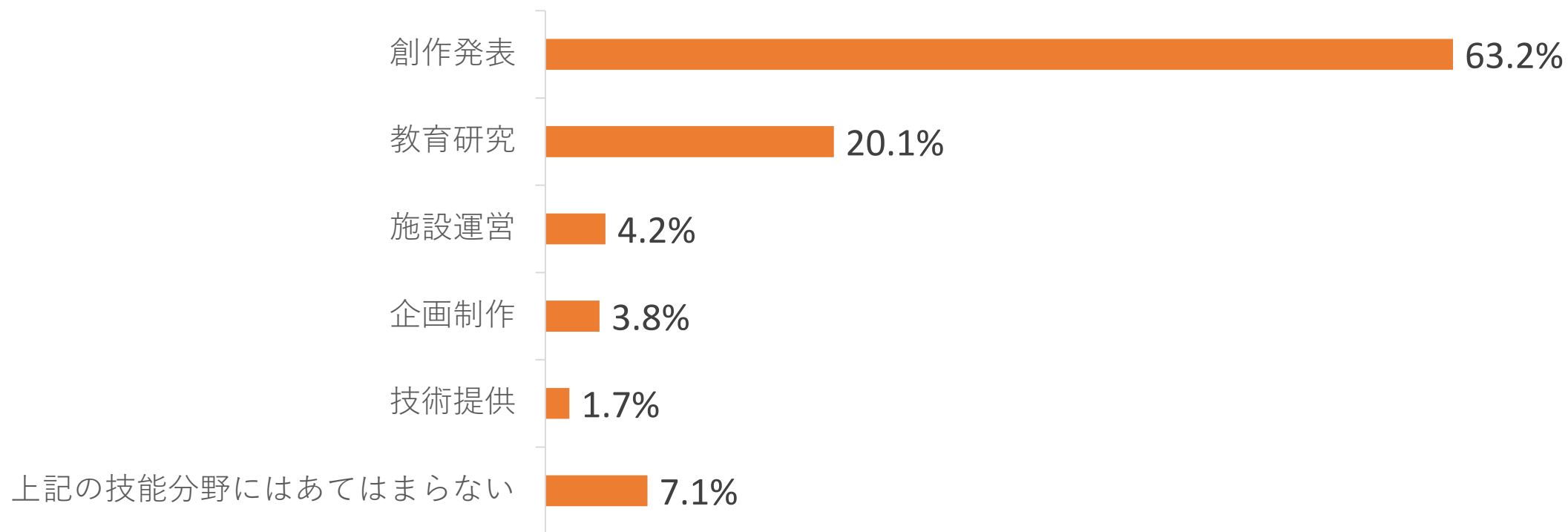
音楽が約3割を占めるが、その他多くの分野からも回答を得た。



①個人対象アンケート 主たる技能分野

創作発表が最も多く63.2%。

※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。

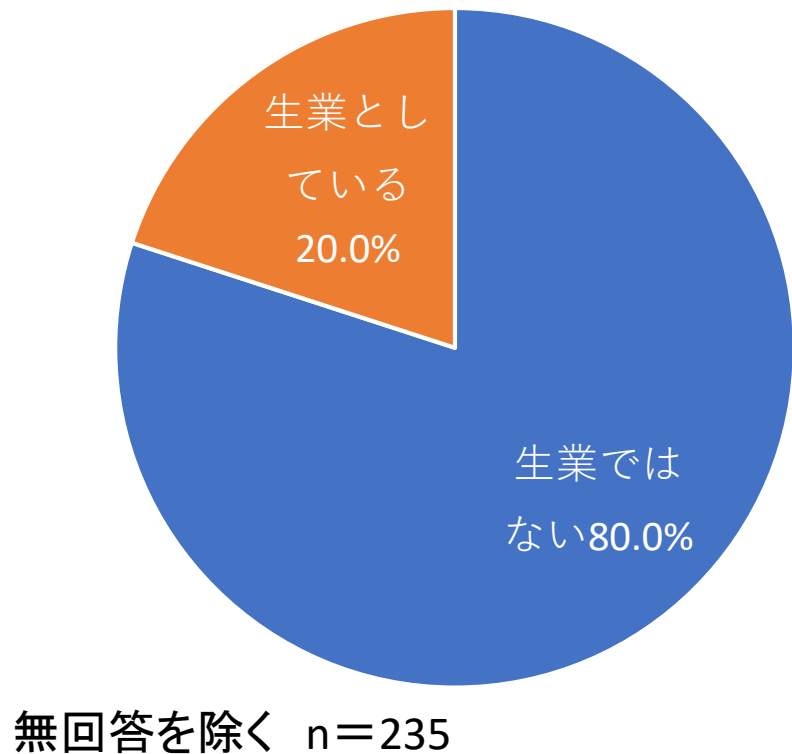


n=239

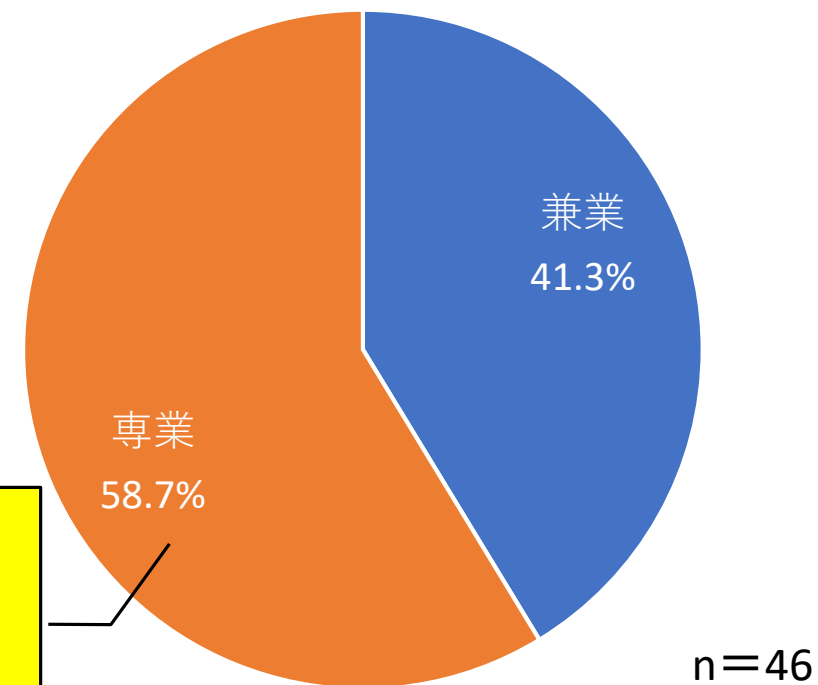
①個人対象アンケート

文化芸術活動を生業としているか・専業か兼業か

20%が文化芸術活動を生業としており、その内58.7%が専業。



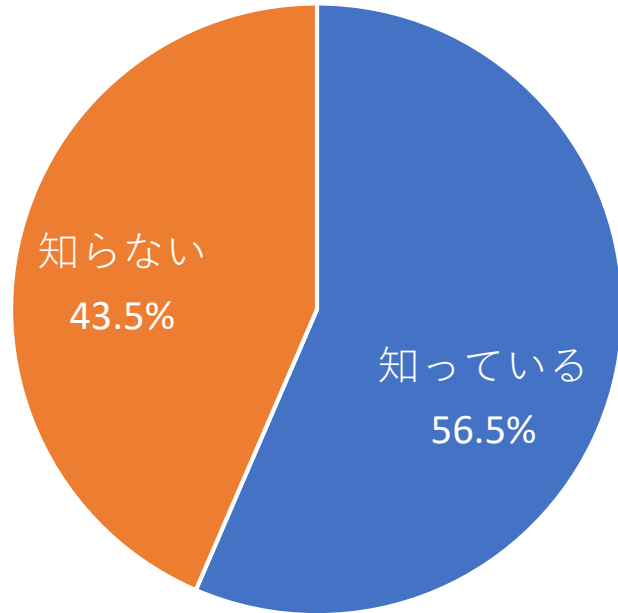
「生業としている」(46件)のうち、兼業・専業の割合



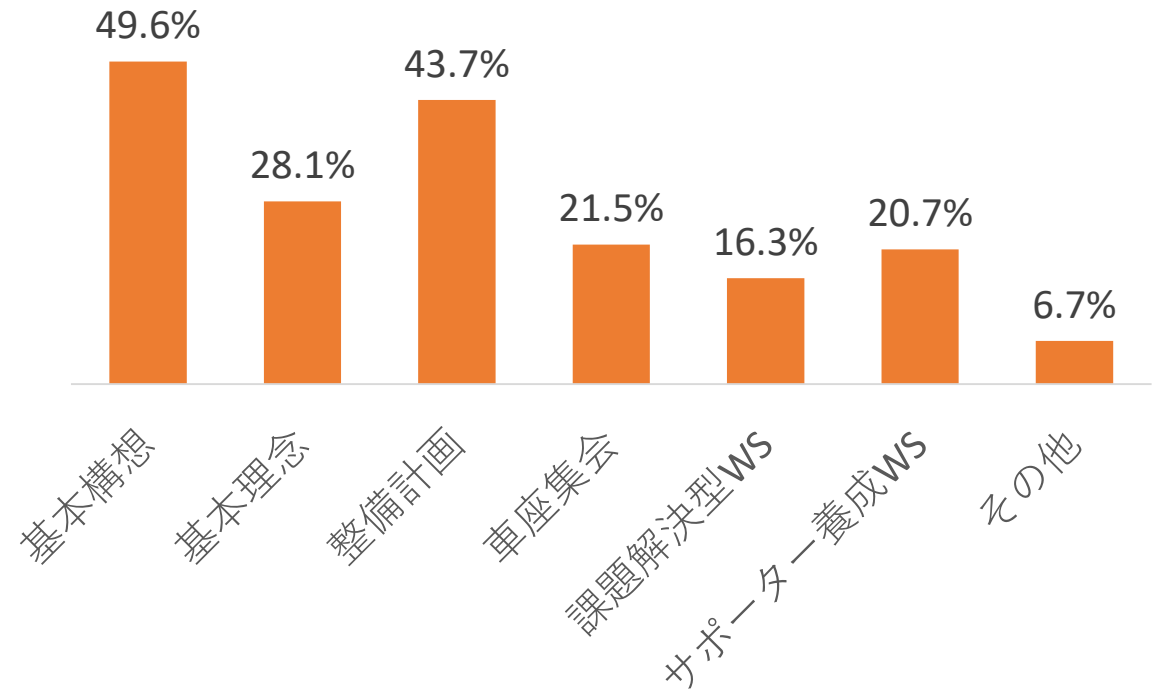
「生業」かつ「専業」は27件、無回答を除く回答者(235件)のうちの11.5%

①個人対象アンケート (仮称)みんなの劇場の建設について

56.5%が(仮称)みんなの劇場について知っており、その内「基本構想」、「整備計画」について知っている割合が多かった。



n=239

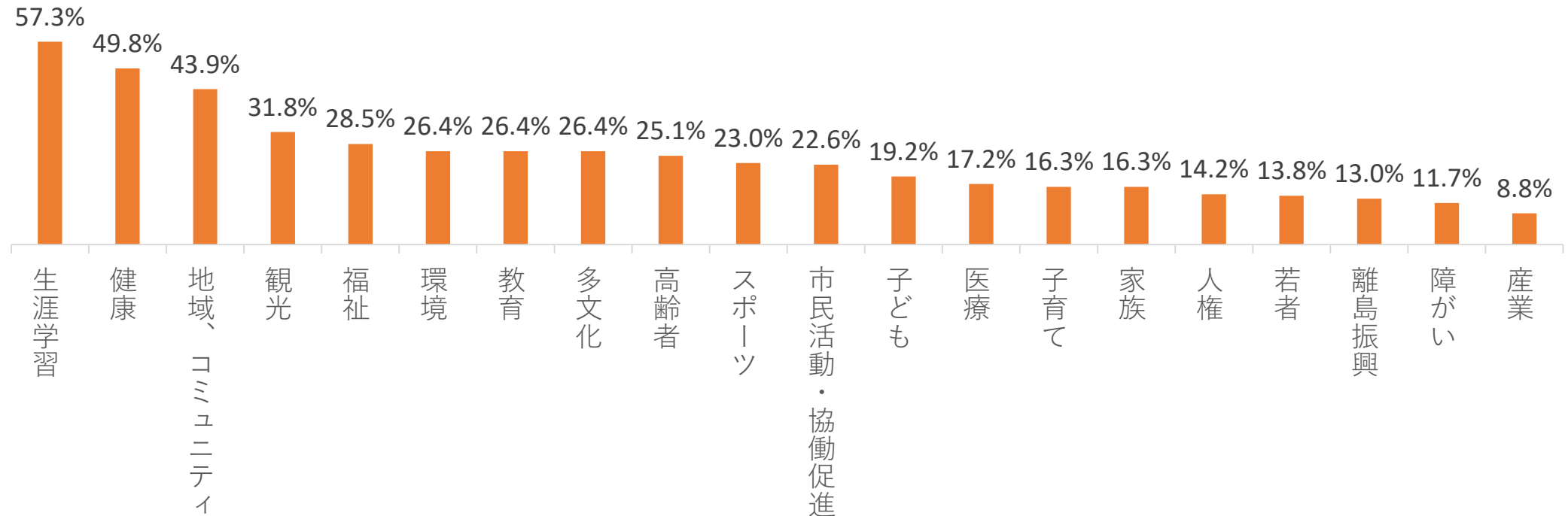


複数回答 無回答を除く n=135

①個人対象アンケート

文化芸術以外の興味や関心のある分野について

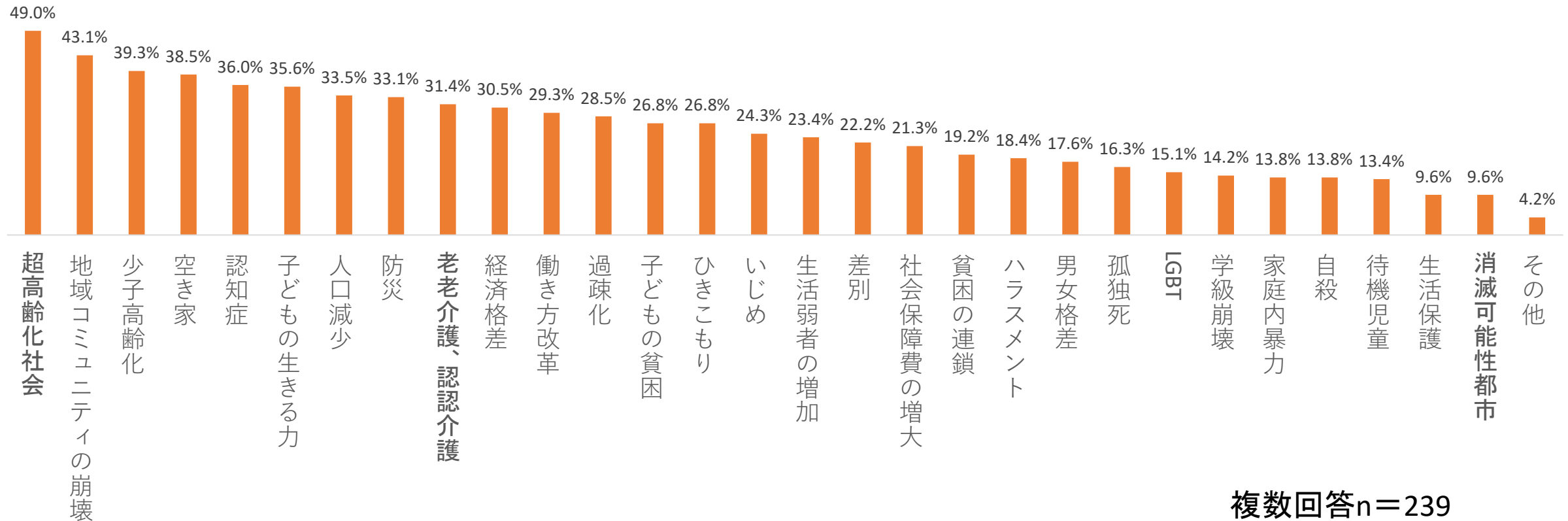
「生涯学習」、「健康」、「地域コミュニティ」の順に、興味・関心が高かった。



複数回答n=239

①個人対象アンケート 興味や関心のある社会課題について

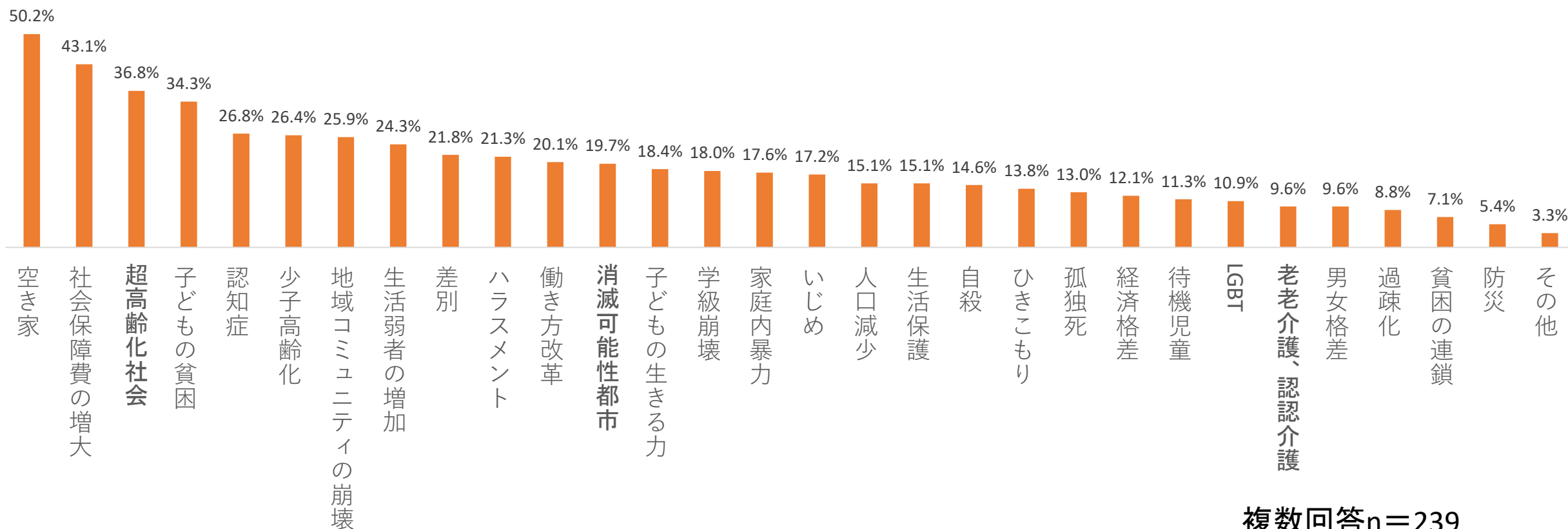
「超高齢化社会」、「地域コミュニティの崩壊」、「少子高齢化」の順に、興味・関心が高かった。



①個人対象アンケート

文化芸術の活用が期待できる社会課題について

「空き家」、「社会保障費の増大」、「超高齢化社会」の順に、期待が高かった。



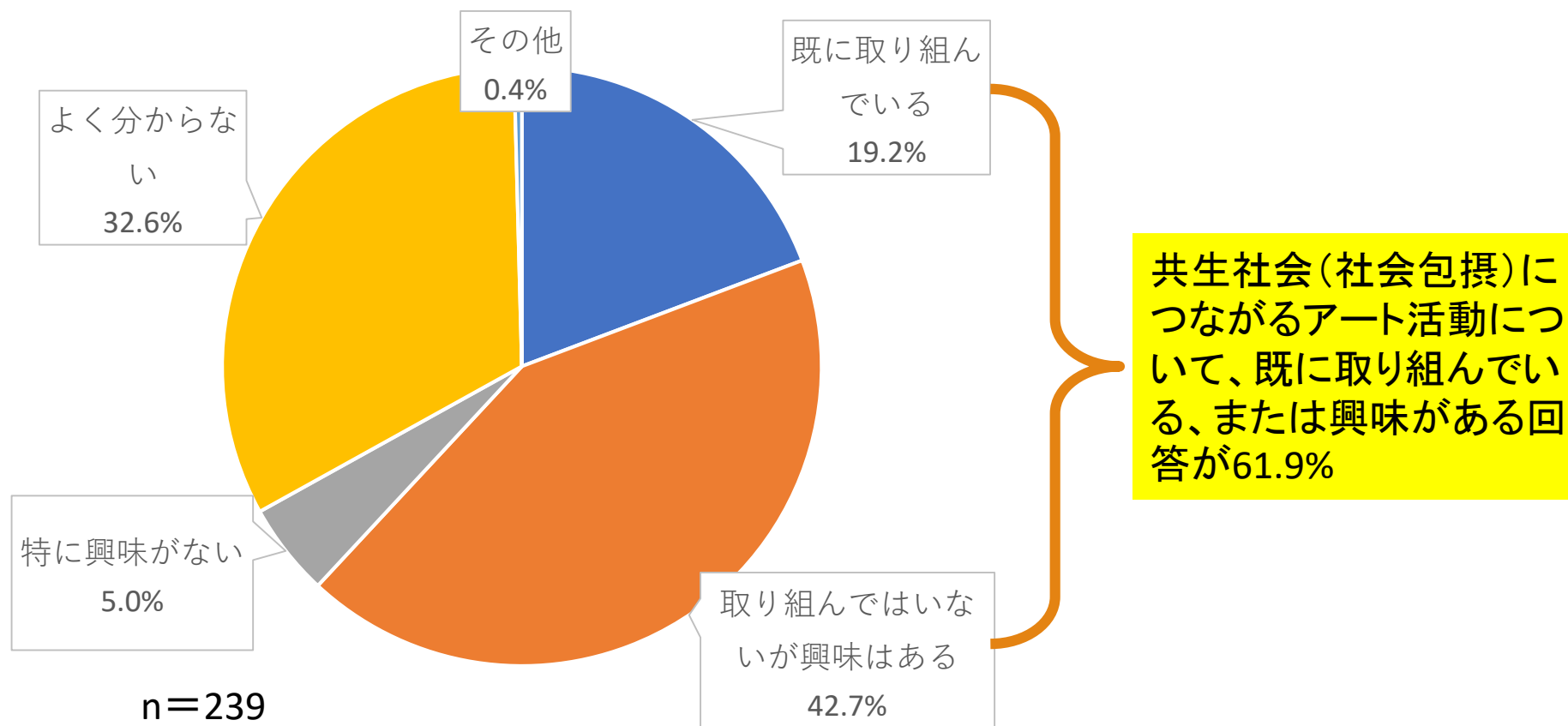
複数回答n=239

①個人対象アンケート

共生社会(社会包摂)につながるアート活動について

61.9%が既に取り組んでいるか、興味があった。

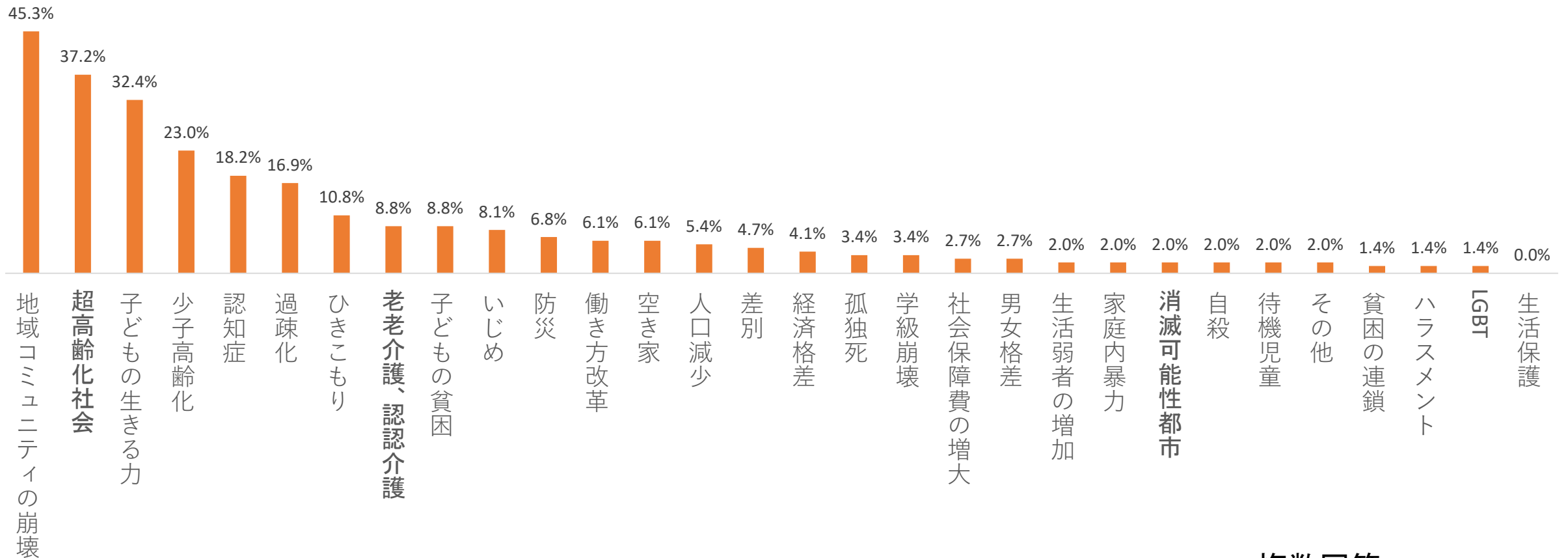
※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。



①個人対象アンケート

「既に取り組んでいる」、「取り組んではいないが興味はある」方の共生社会(社会包摂)につながるアート活動について

「地域コミュニティの崩壊」、「超高齢化社会」、「子どもの生きる力」の順に高かった。

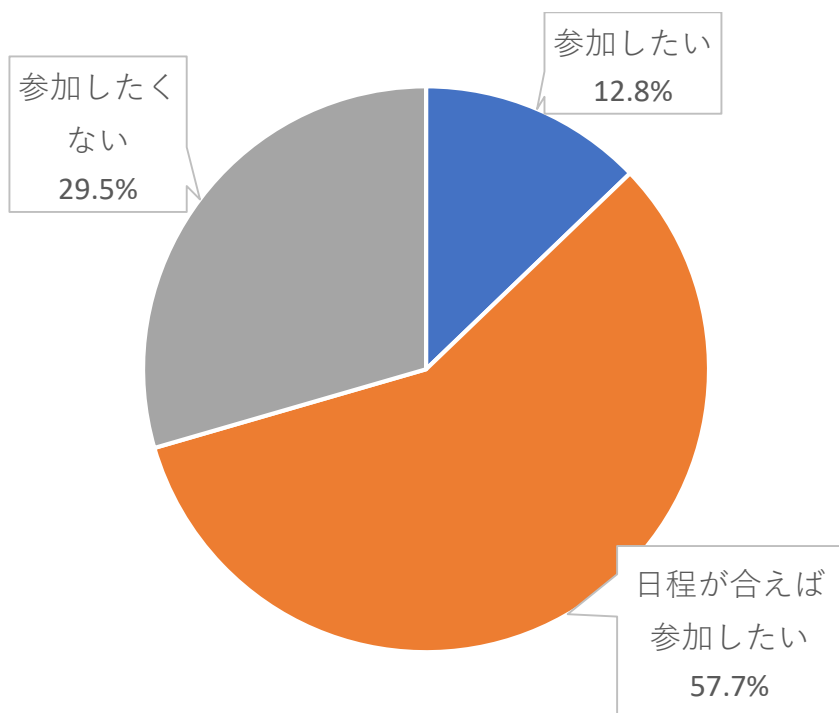


複数回答n=148

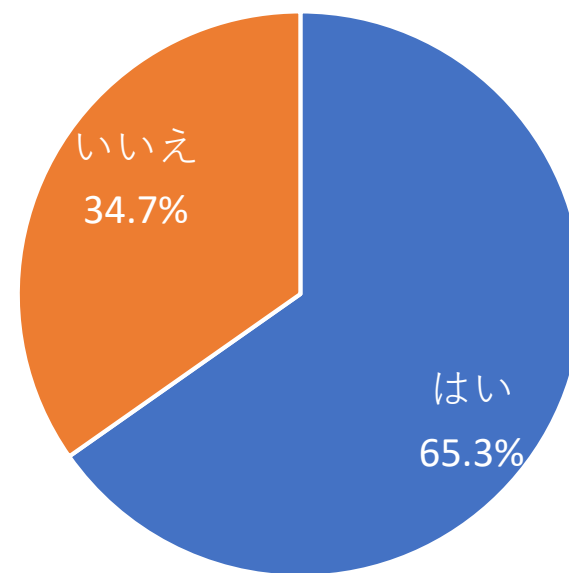
①個人対象アンケート

人材育成事業への参加、丸亀市との協働について

70.5%が参加意欲があり、65.3%が協働を望んだ。



無回答を除く n=234

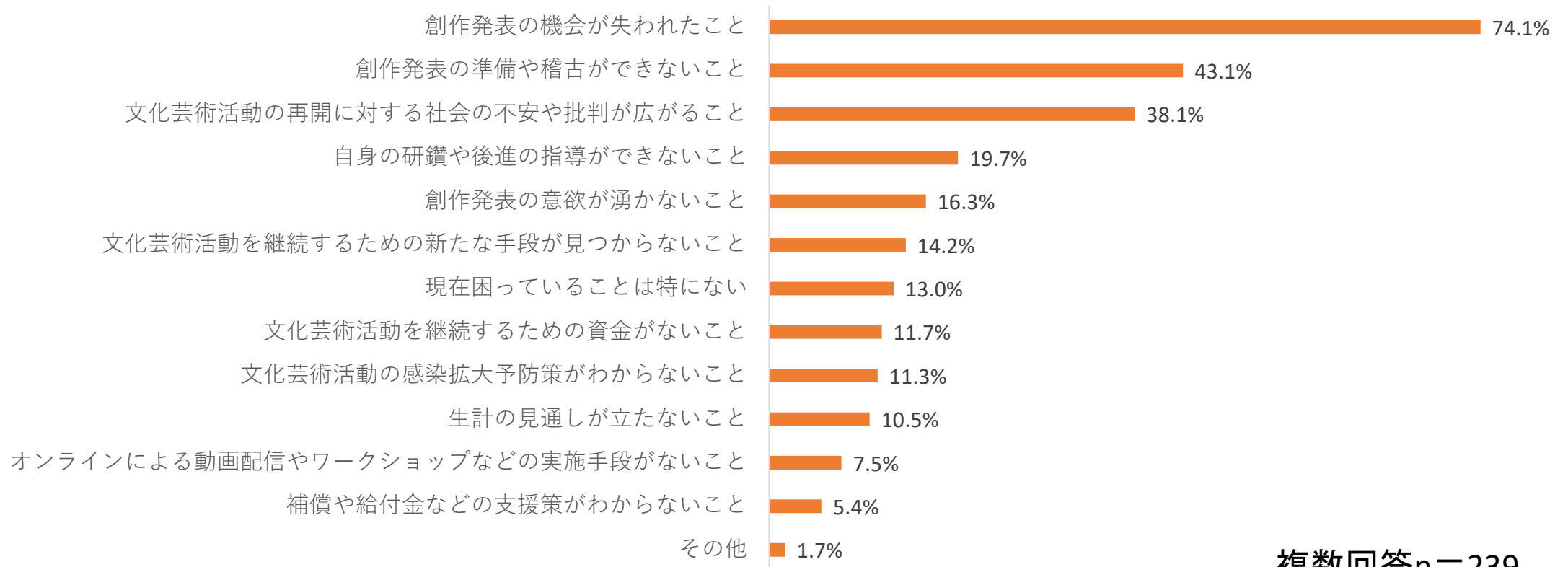


無回答を除く n=236

①個人対象アンケート

新型コロナウイルスの影響で困っていることについて

「創作発表の機会が失われたこと」が74.1%と最も多かった。

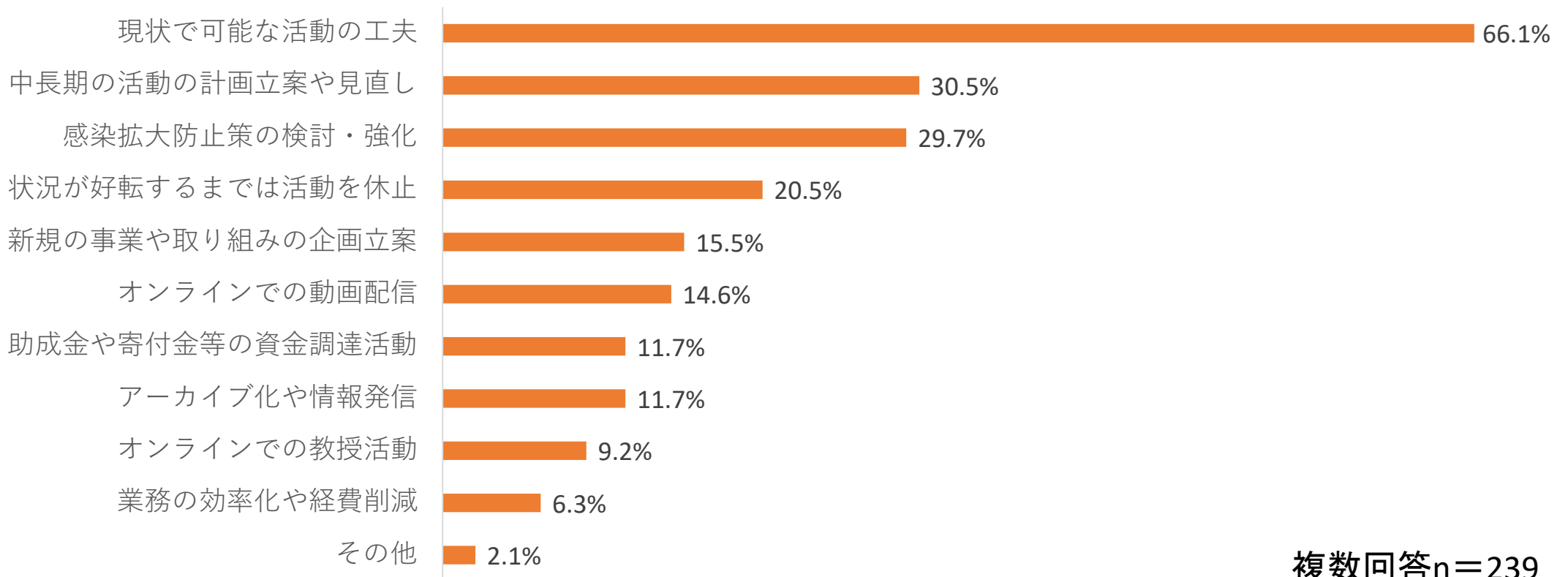


複数回答n=239

①個人対象アンケート

新型コロナウイルスへの対策をとりながら、実践している取り組みや、予定されている取り組みについて

「現状で可能な活動の工夫」が66.1%と最も多かった。

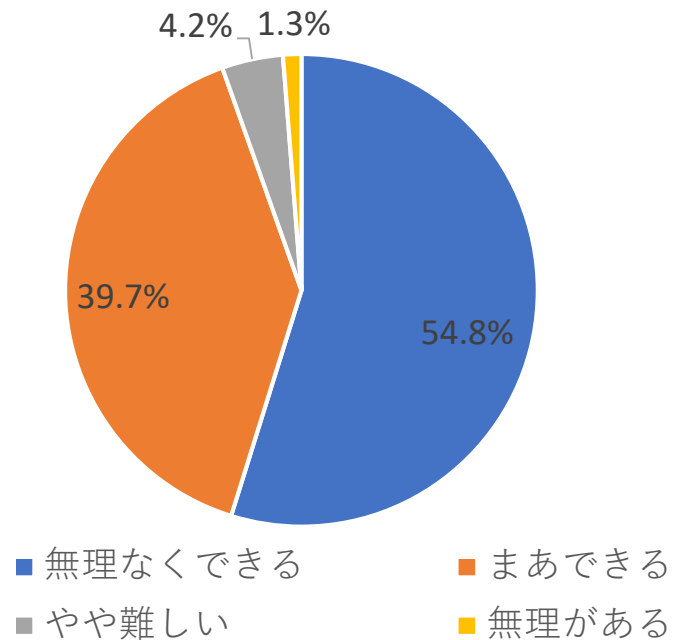


①個人対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について①

94.5%ができると回答。

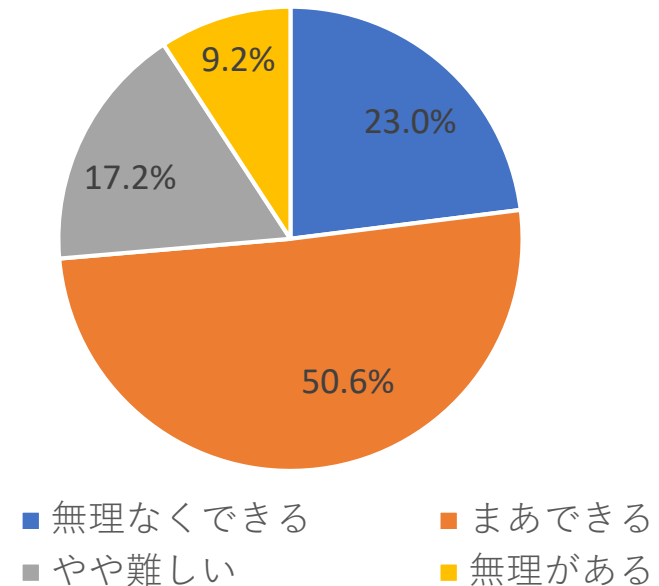
日常生活で、一人ひとりが、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの感染防止をすること



n=239

73.6%ができると回答。

練習、稽古、制作等の特定少数による活動で、3密（密集、密接、密閉）を回避すること



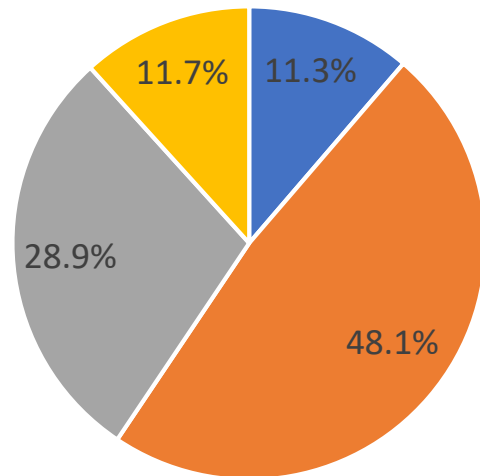
n=239

①個人対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について②

59.4%ができると回答。

公演、発表、展示等の不特定多数に向けた活動で、人数の制限や身体的距離の確保等により密集、密接を回避すること



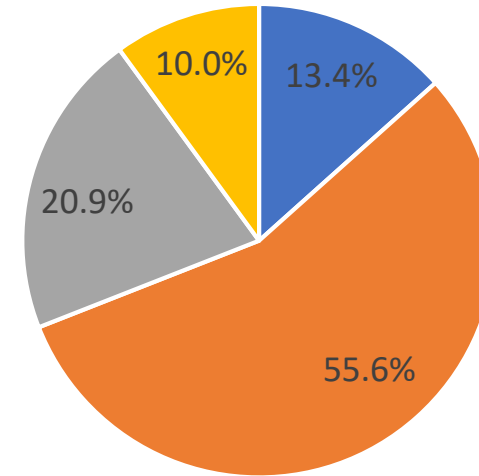
■ 無理なくできる ■ まあできる
■ やや難しい ■ 無理がある

n=239

69%ができると回答。

※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。

公演、発表、展示等の不特定多数に向けた活動で、屋外での実施や、屋内のこまめな換気により、密閉を回避すること



■ 無理なくできる ■ まあできる
■ やや難しい ■ 無理がある

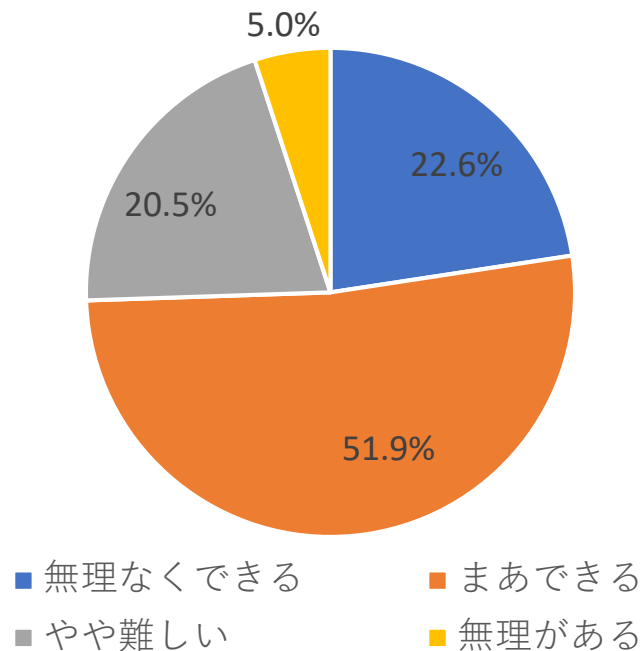
n=239

①個人対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について③

74.5%ができると回答。

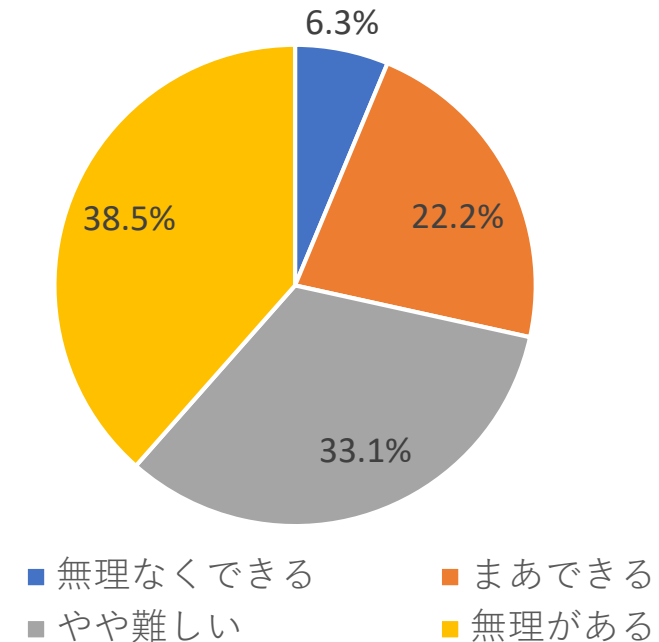
公演、発表、展示等の不特定多数に向けた活動で、検温、マスク着用、手指消毒等の協力を求めて感染予防を講じること



n=239

71.1%が難しいと回答。

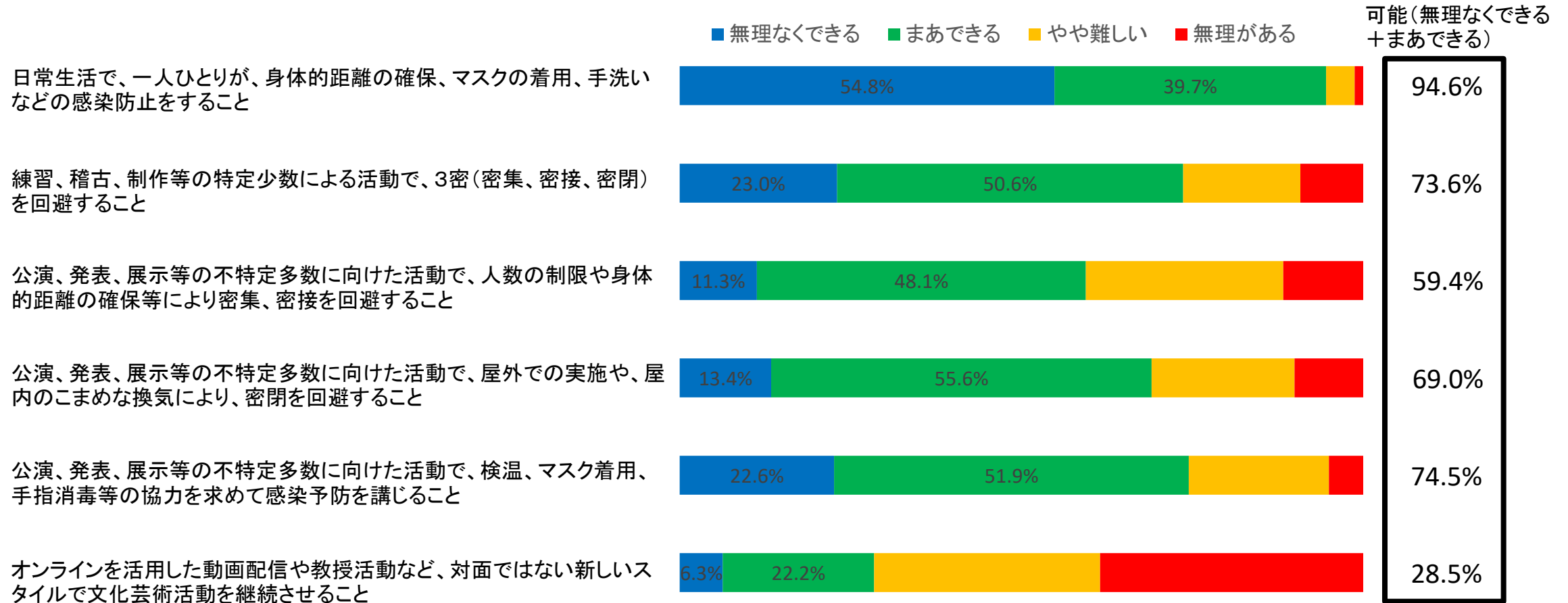
オンラインを活用した動画配信や教授活動など、対面ではない新しいスタイルで文化芸術活動を継続させること



n=239

①個人対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について

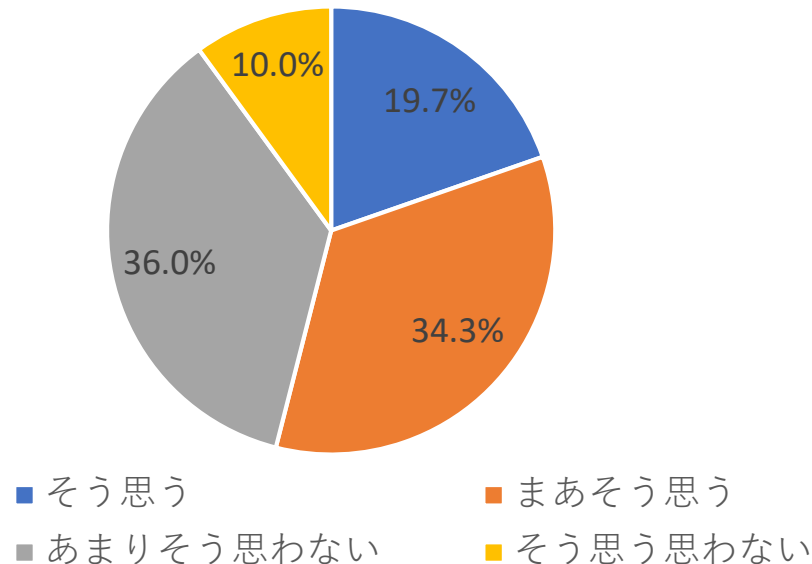


n=239

①個人対象アンケート オンラインの活用について①

思う、思わないがそれぞれ約半数。

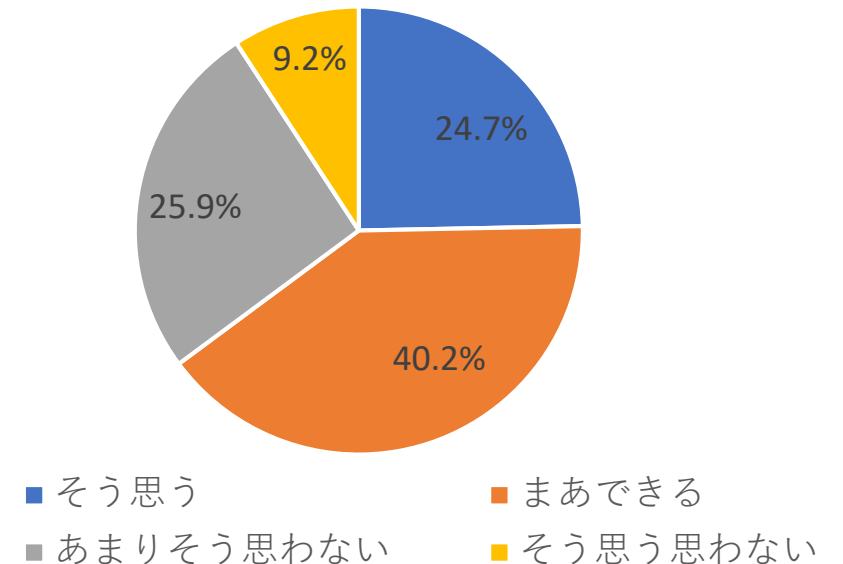
オンラインの活用によって、今まで興味や関心が薄かった人たちに文化芸術を届けることができる



n=239

64.9%が思うと回答。

オンラインの活用によって、文化施設に足を運ぶことが難しい障害者や高齢者に文化芸術を届けることができる

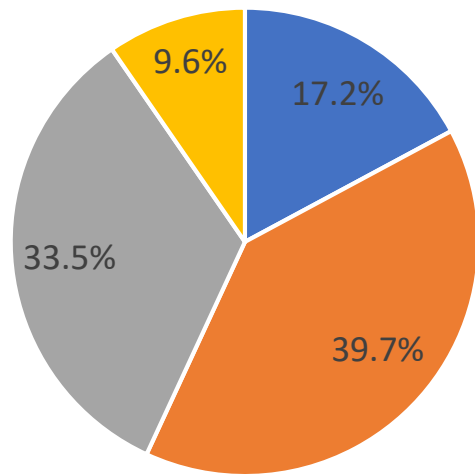


n=239

①個人対象アンケート オンラインの活用について②

思う、思わないがそれぞれ約半数。

オンラインの活用によって、文化芸術の愛好家に、より一層の興味や関心を広げたり深めたりすることができる

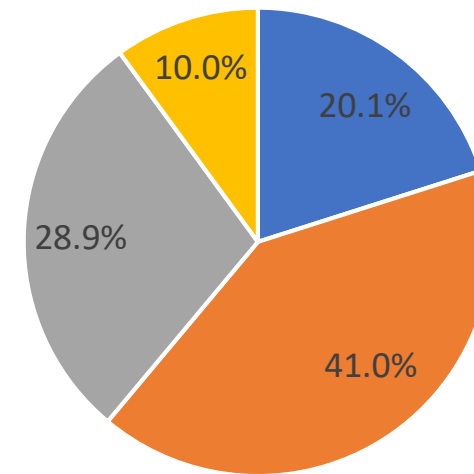


■ そう思う
■ まあできる
■ あまりそう思わない
■ そう思う思わない

n=239

61.1%が思うと回答。

オンラインの活用によって、文化芸術の創造活動や表現方法の新しい可能性を切り開くことができる



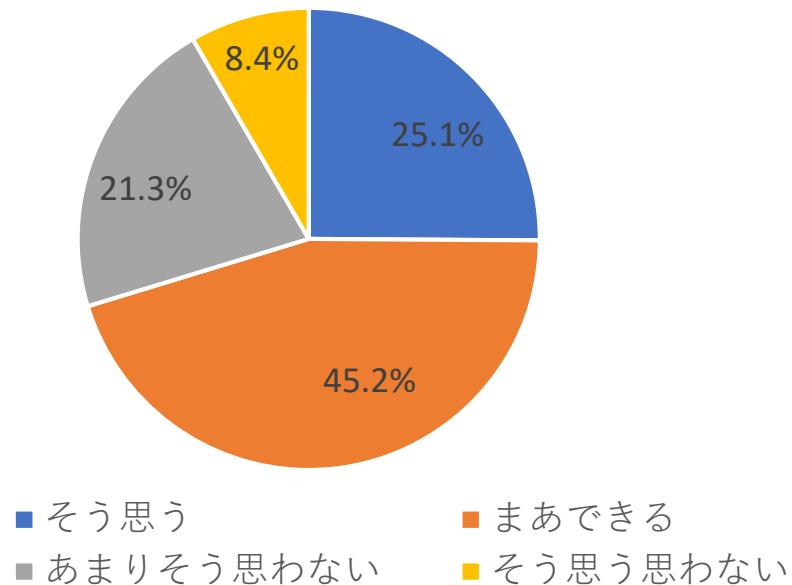
■ そう思う
■ まあできる
■ あまりそう思わない
■ そう思う思わない

n=239

①個人対象アンケート オンラインの活用について③

70.3%が思うと回答。

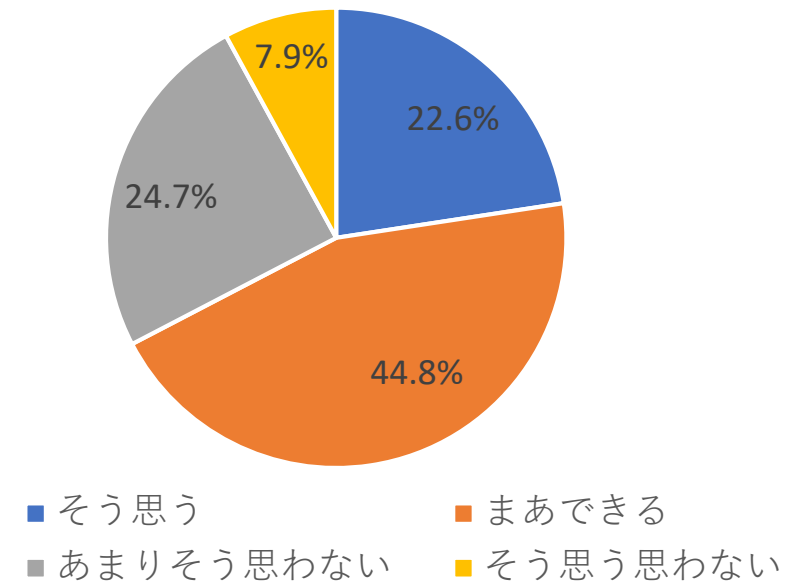
オンラインの活用によって、国内外の文化芸術に関する最新・最先端の情報や多様な文化芸術に触れることができる



n=239

67.4%が思うと回答。

オンラインの活用によって、地域における文化芸術の独自性や地域独特の文化資源を国内外に発信することができる

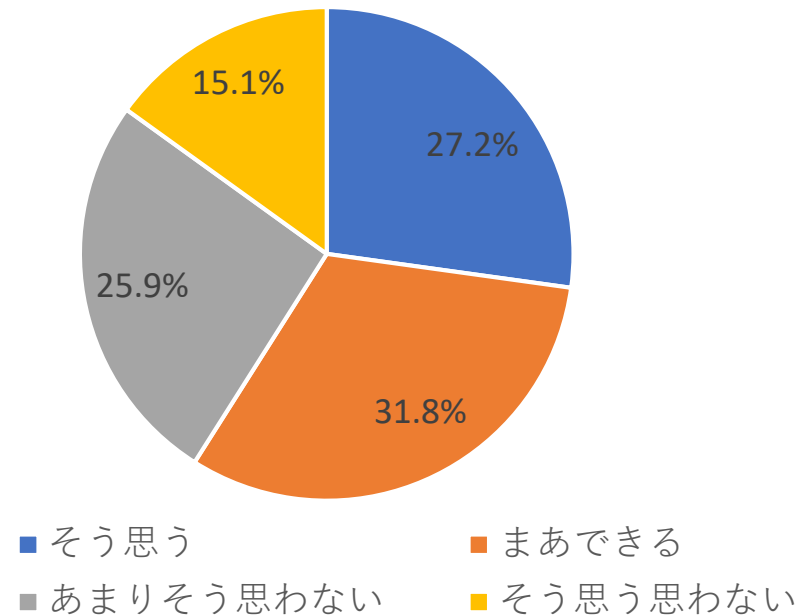


n=239

①個人対象アンケート オンラインの活用について④

59%が思うと回答。

オンラインの活用は自分たちの活動には適さない



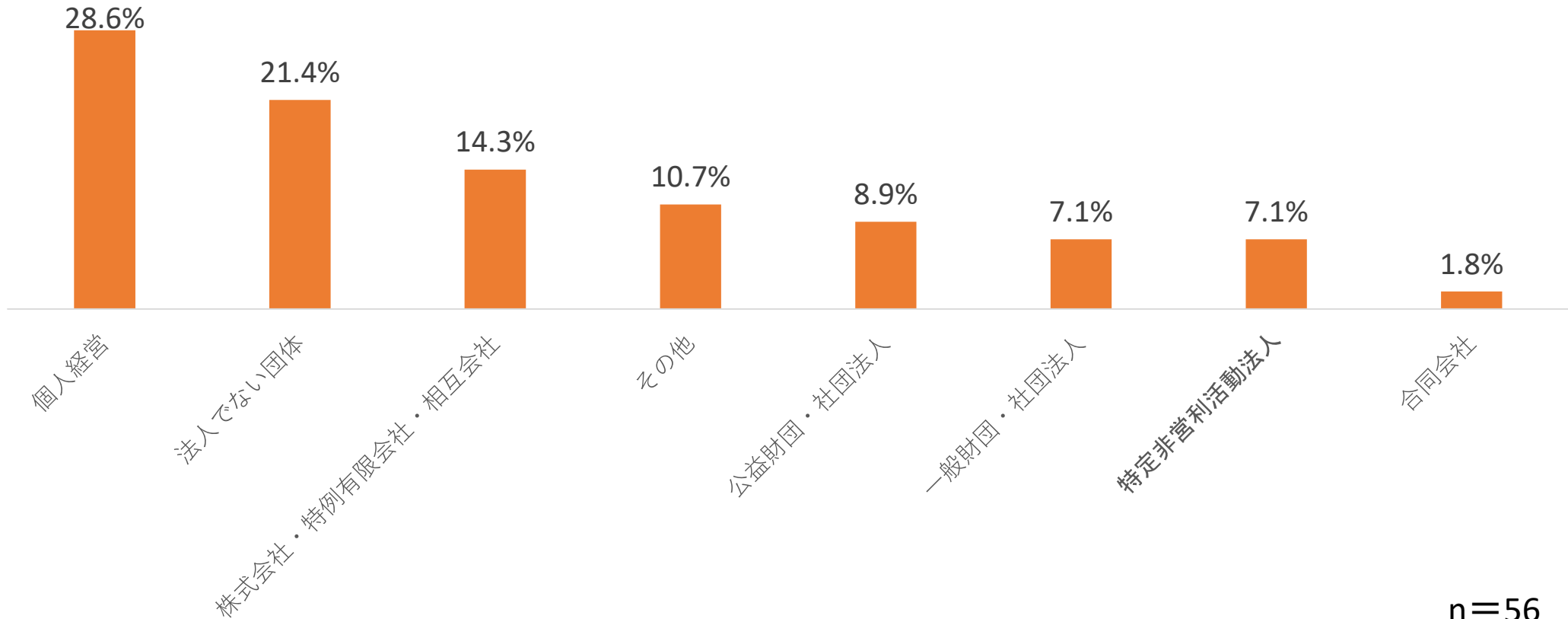
n=239

調査対象② 事業所対象アンケート

②事業所対象アンケート 経営形態

28.6%が個人経営、21.4%が法人でない団体

※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。



n=56

②事業所対象アンケート 従業者数

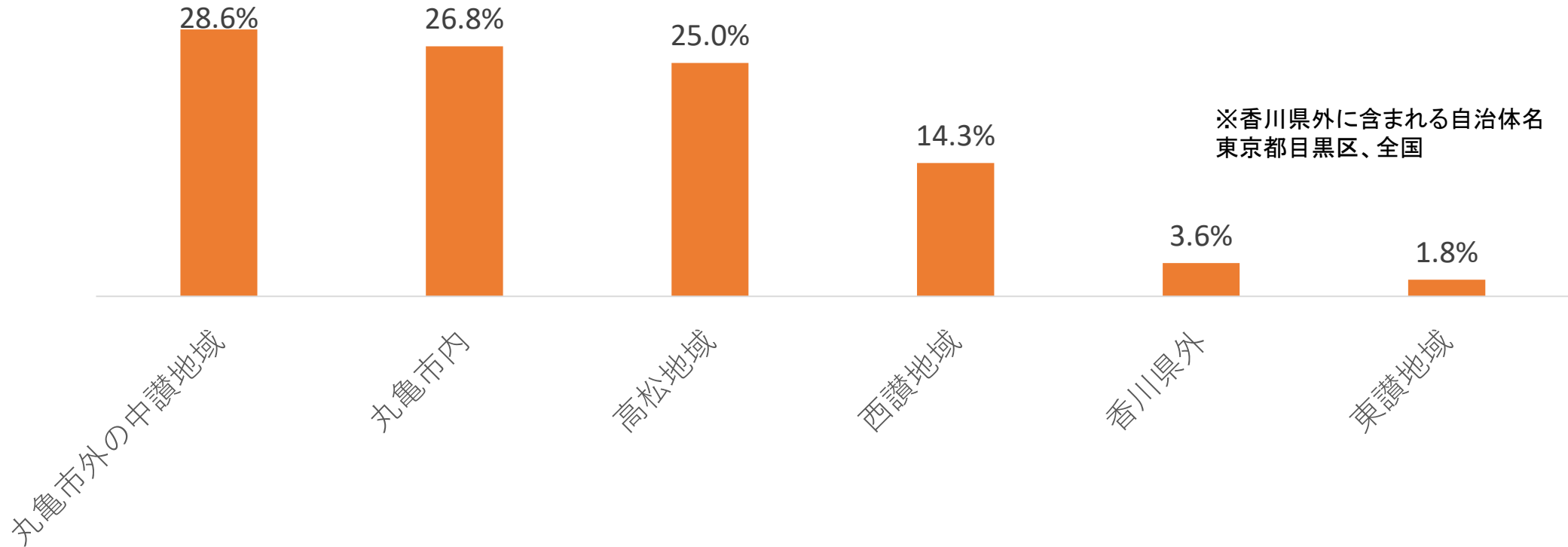
一般財団・社団法人が平均53人の職員を抱えており、最も多かった。

	職員数(有償・無償を含む)		
	平均	最大値	n
個人経営	2	6	16
株式会社・特例有限会社・相互会社	8	37	7
合同会社	2	2	1
公益財団・社団法人	10	28	5
一般財団・社団法人	53	131	4
特定非営利活動法人	28	55	4
法人でない団体	12	23	10
その他	16	27	3

無回答、異常値を除く n=50

②事業所対象アンケート 所在地

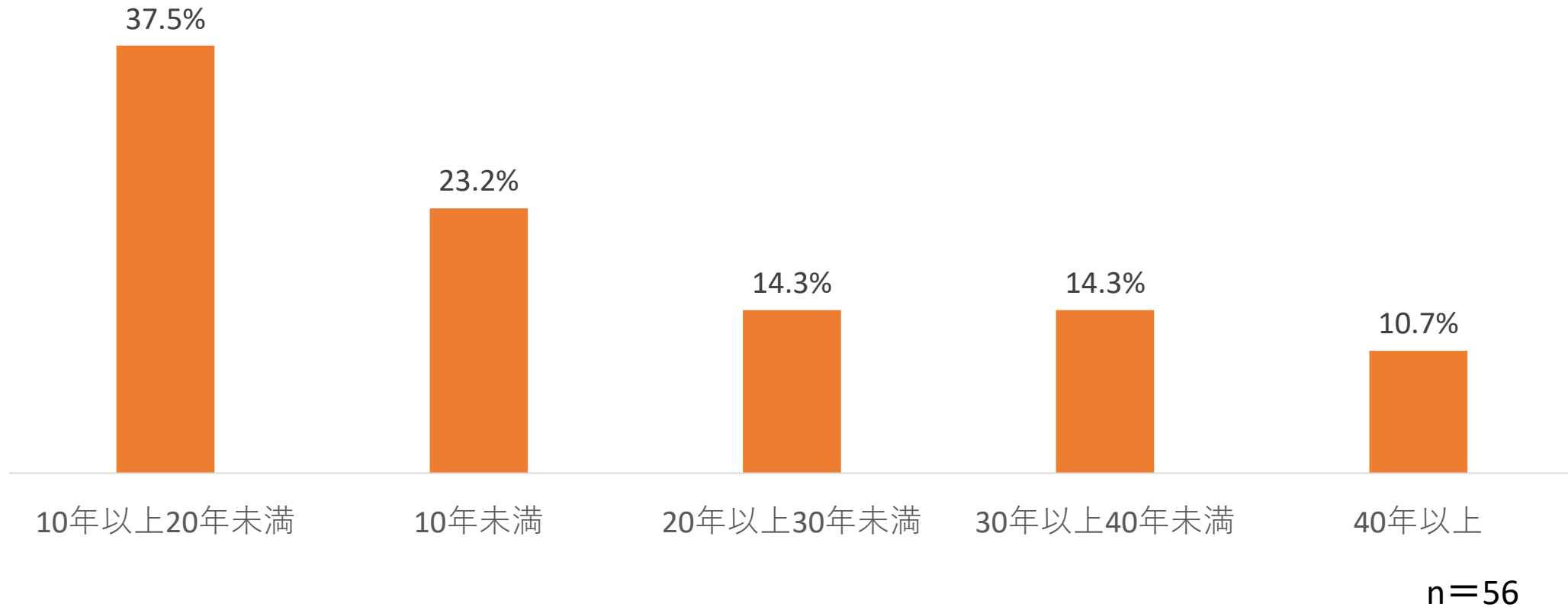
丸亀市内に限らず、多くの県内・県外の事業所より回答を得た。
※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。



n=56

②事業所対象アンケート 活動年数

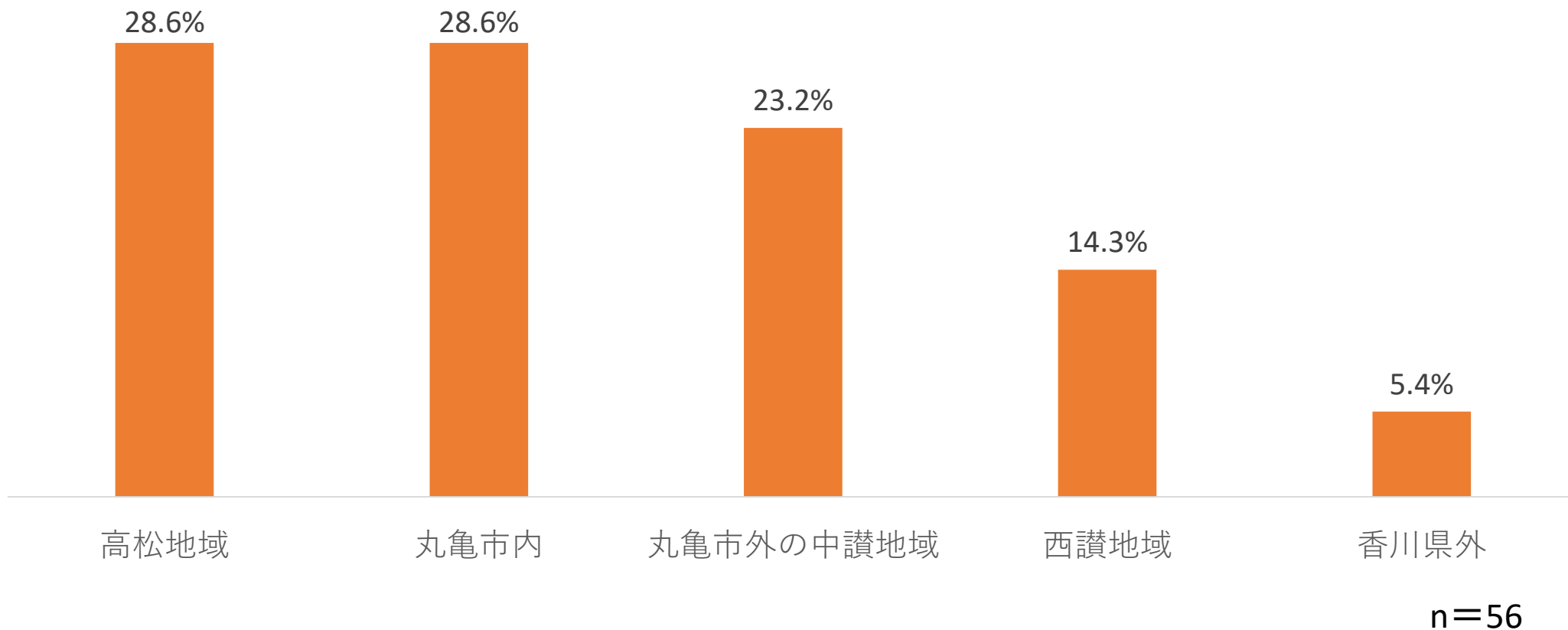
10年以上20年未満が37.5%、10年未満が23.3%



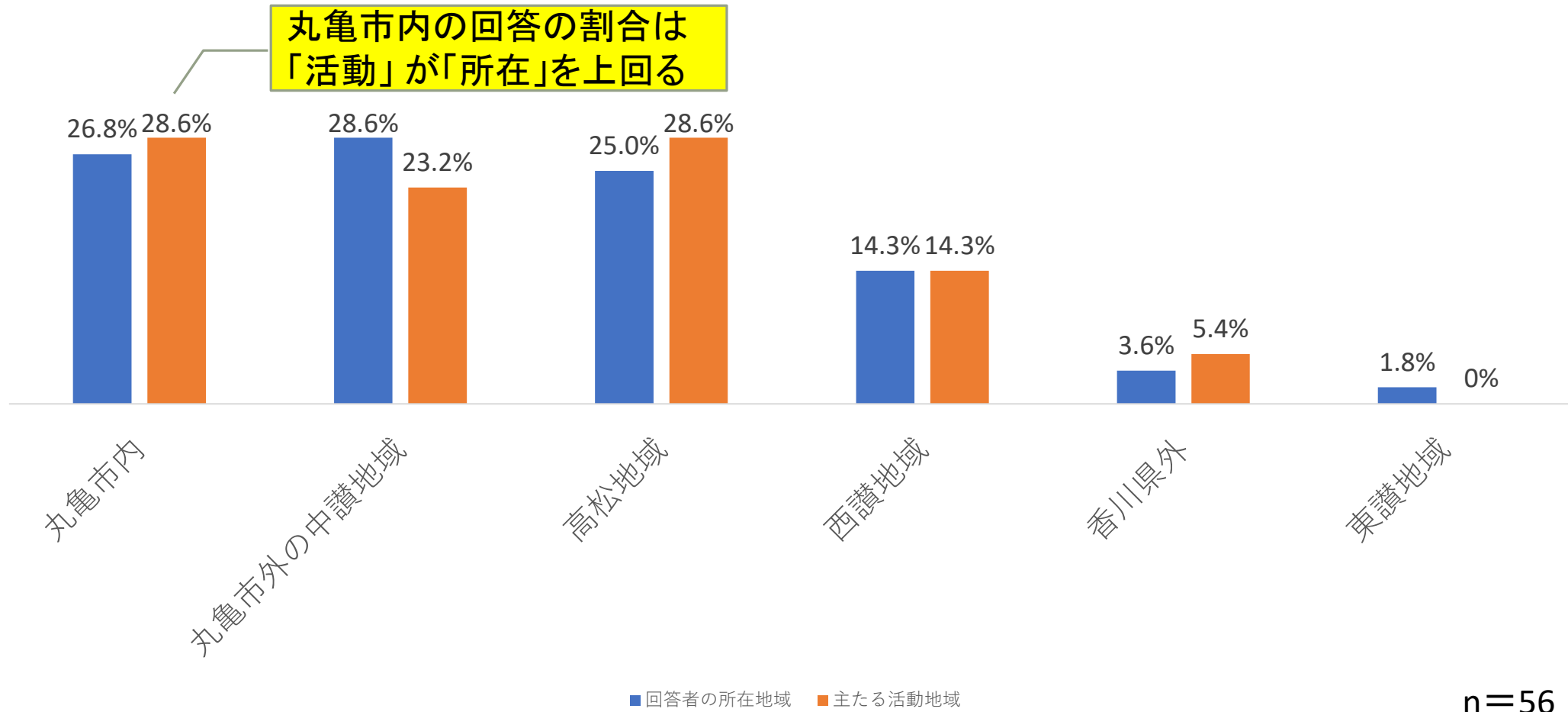
②事業所対象アンケート 活動地

丸亀市内に限らず、多くの県内・県外で活動する事業所より回答を得た。

※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。

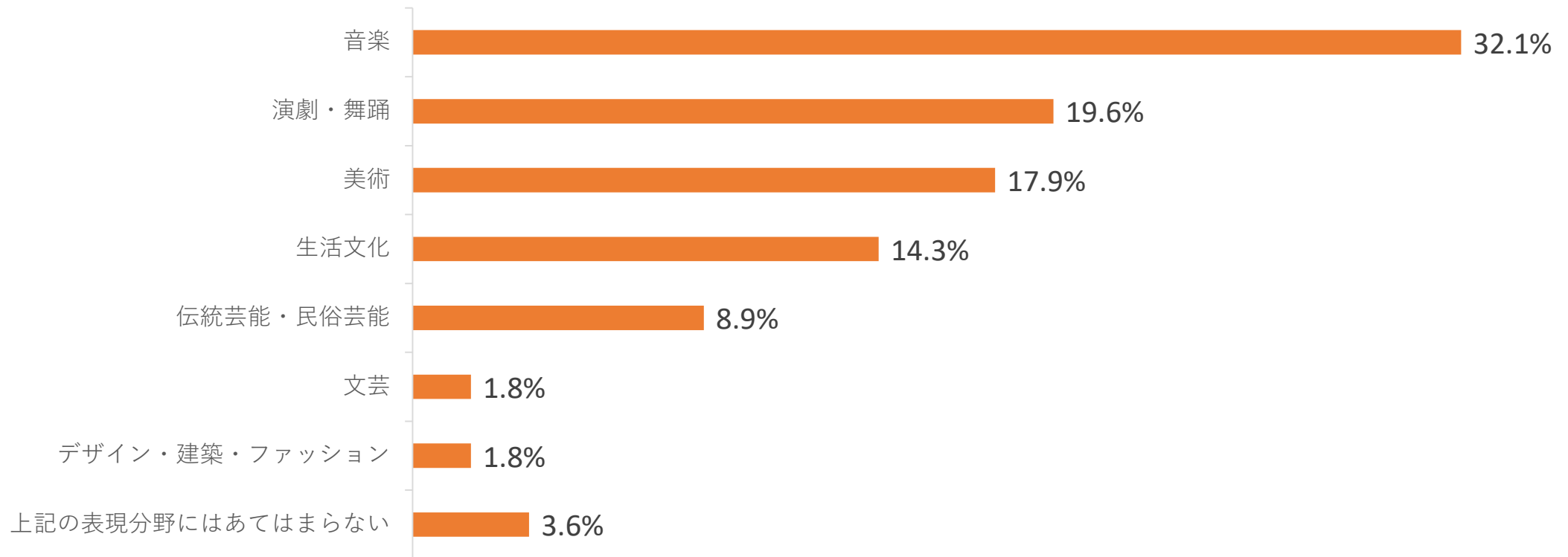


②事業所対象アンケート 所在地域と活動地域の比較



②事業所対象アンケート 主たる表現分野

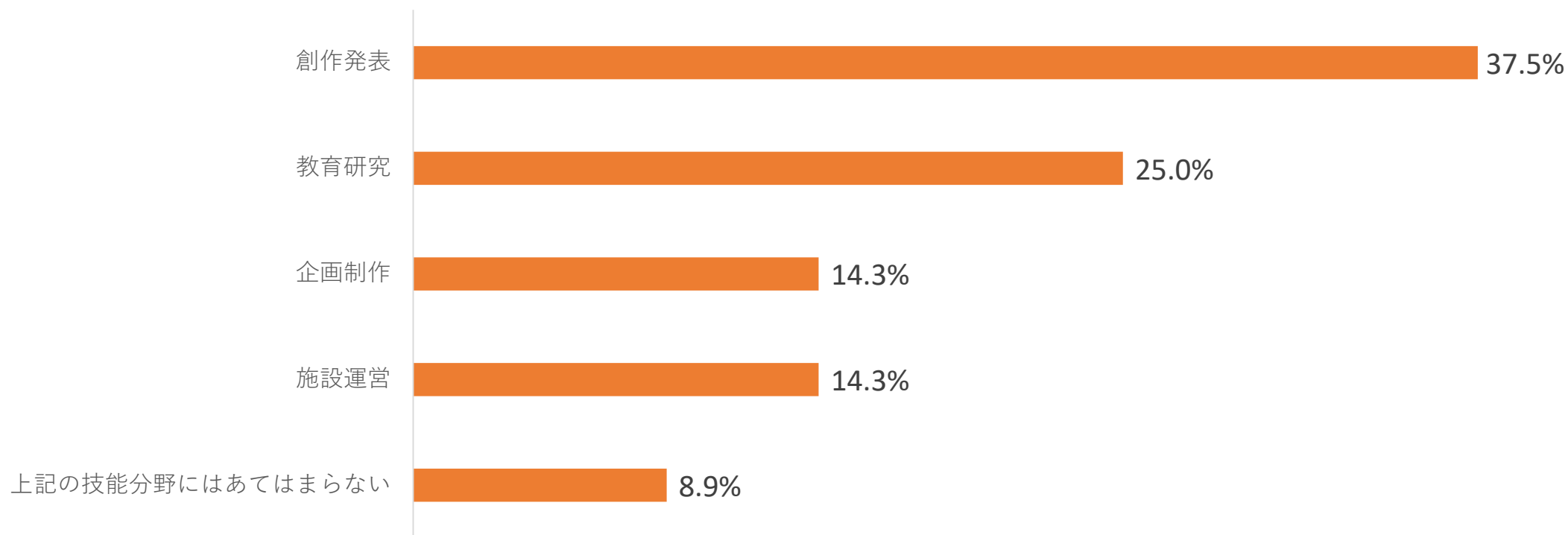
音楽が約3割を占めるが、その他多くの分野からも回答を得た。



n=56

②事業所対象アンケート 主たる技能分野

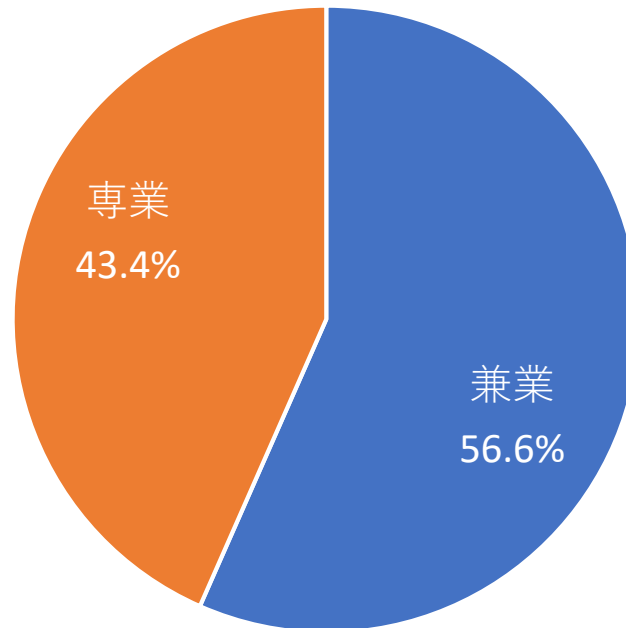
創作発表が最も多く37.5%、次いで教育研究が25%。



n=56

②事業所対象アンケート 文化芸術活動は専業か兼業か

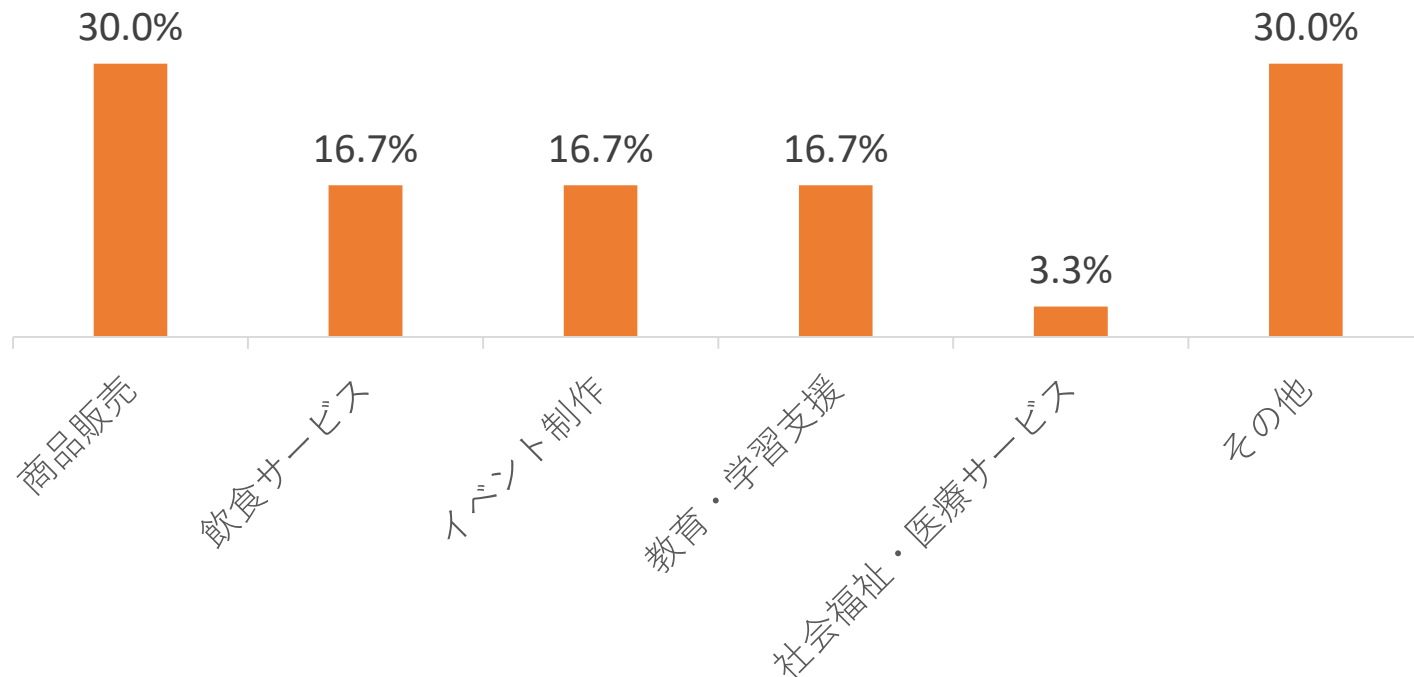
56.6%が文化芸術とは別に業務をしており、文化芸術活動のみのは43.4%。



無回答を除く n=53

②事業所対象アンケート 兼業のうち別業務の分野

別の業務として「商品販売」が26.5%、「飲食サービス」、「イベント制作」、「教育・学習支援」が14.7%であった。

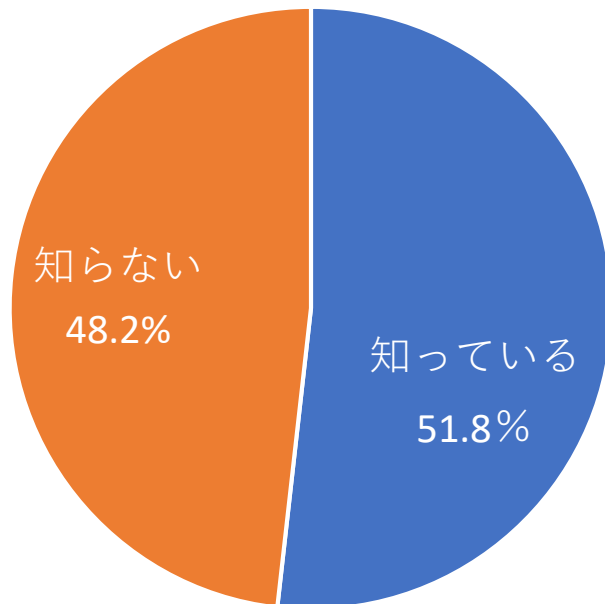


「その他」の回答
法務、施設運営業、子育て支援
ホテル・サービスエリア・運動施設等
会議室の貸出、販売業
個人知的探求、展示、主婦

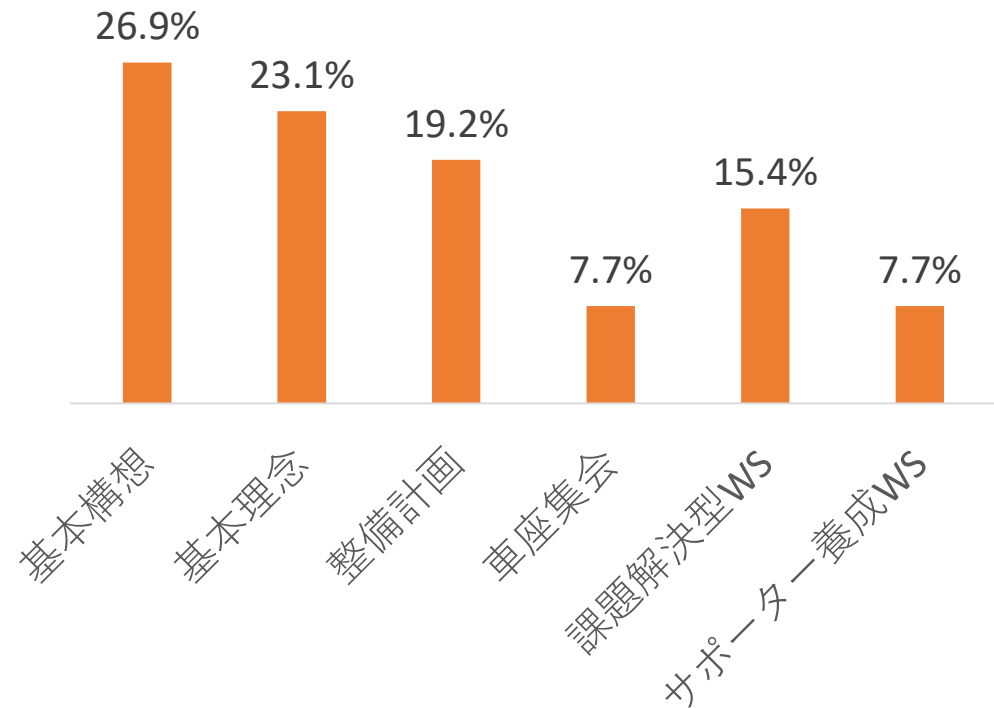
複数回答n=30

②事業所対象アンケート (仮称)みんなの劇場の建設について

51.8%が(仮称)みんなの劇場について知っており、その内「基本構想」が26.9%、23.1%が基本理念であった。



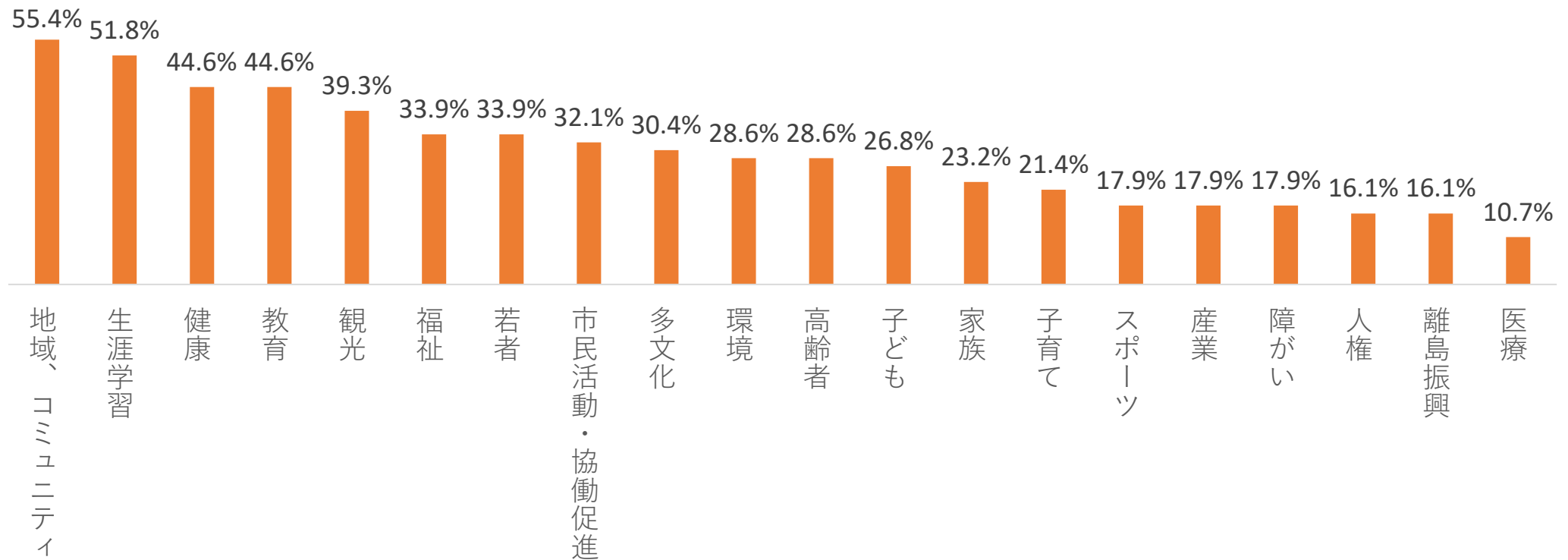
n=56



無回答を除く、複数回答 n=10

②事業所対象アンケート 文化芸術以外の興味や関心のある分野について

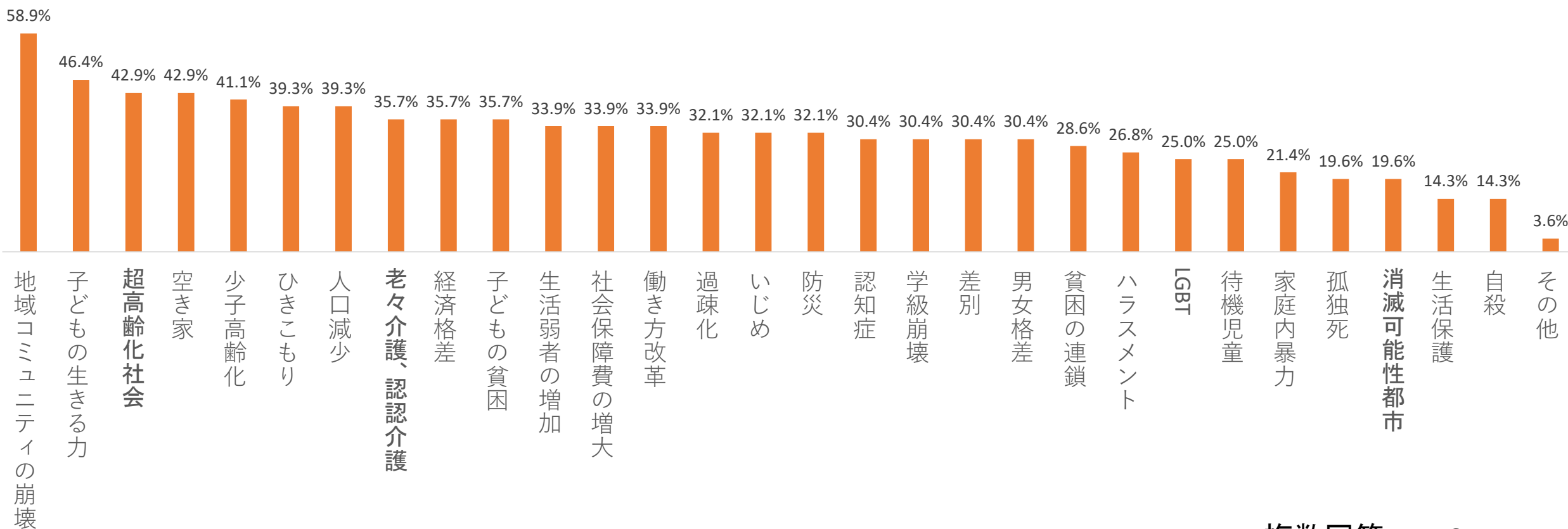
「地域、コミュニティ」、「生涯学習」、「健康」、「教育」の順に、興味・関心が高かった。



複数回答n=56

②事業所対象アンケート 興味や関心のある社会課題について

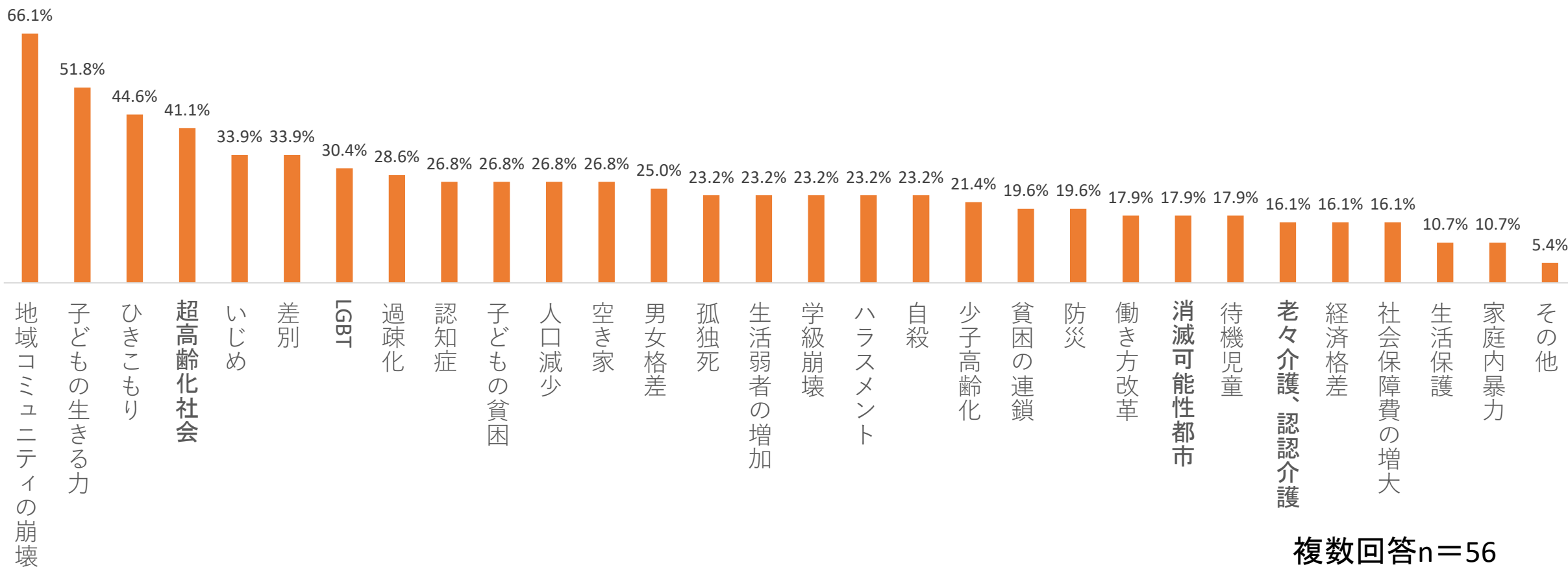
「地域コミュニティの崩壊」、「子どもの生きる力」、「超高齢化社会」の順に、興味・関心が高かった。



複数回答n=56

②事業所対象アンケート 文化芸術の活用が期待できる社会課題について

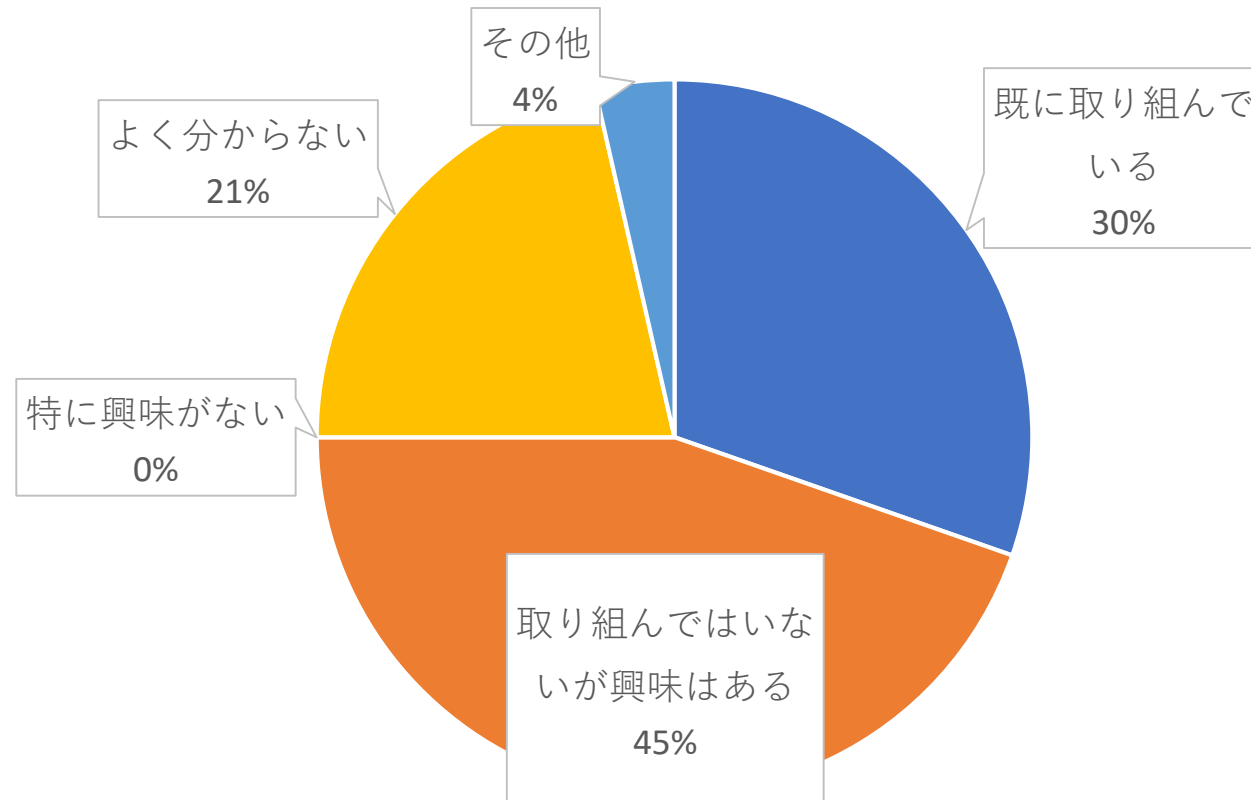
「地域コミュニティの崩壊」、「子どもの生きる力」、「ひきこもり」の順に、期待が高かった。



複数回答n=56

②事業所対象アンケート 共生社会(社会包摂)につながるアート活動について

75%が既に取り組んでいるか、興味があった。



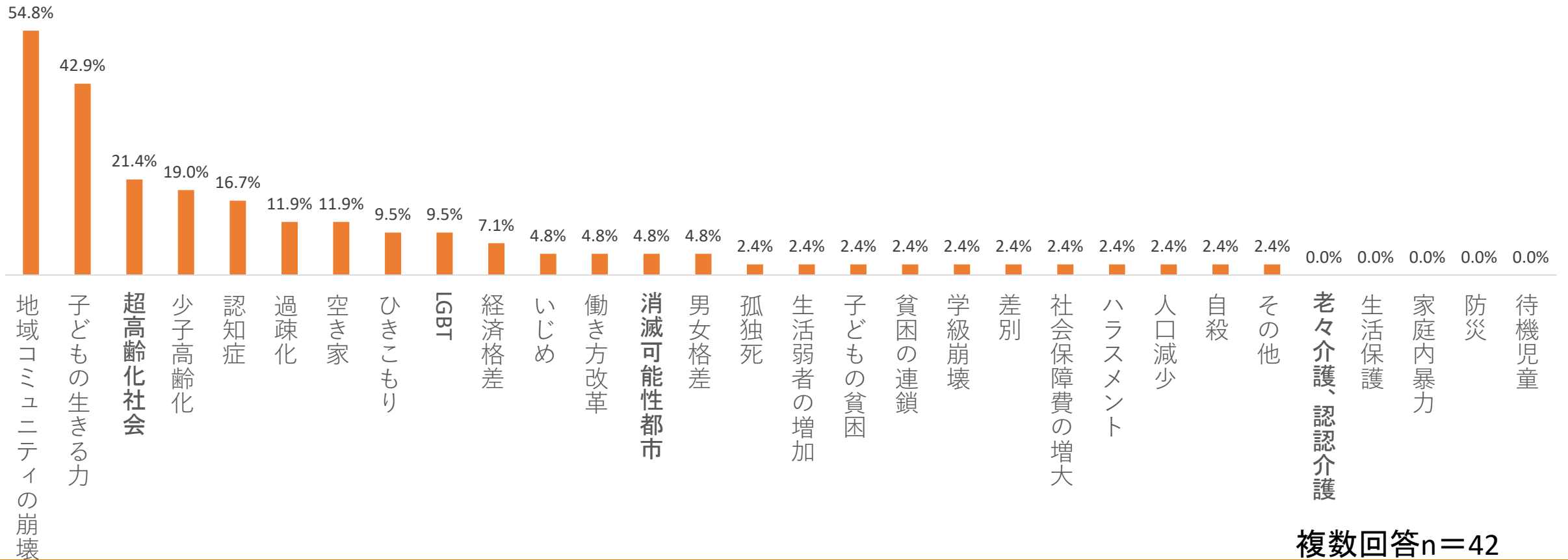
共生社会(社会包摂)につながるアート活動について、既に取り組んでいる、または興味がある回答が75%

n=56

②事業所対象アンケート

「既に取り組んでいる」、「取り組んではいないが興味はある」方の共生社会(社会包摂)につながるアート活動について

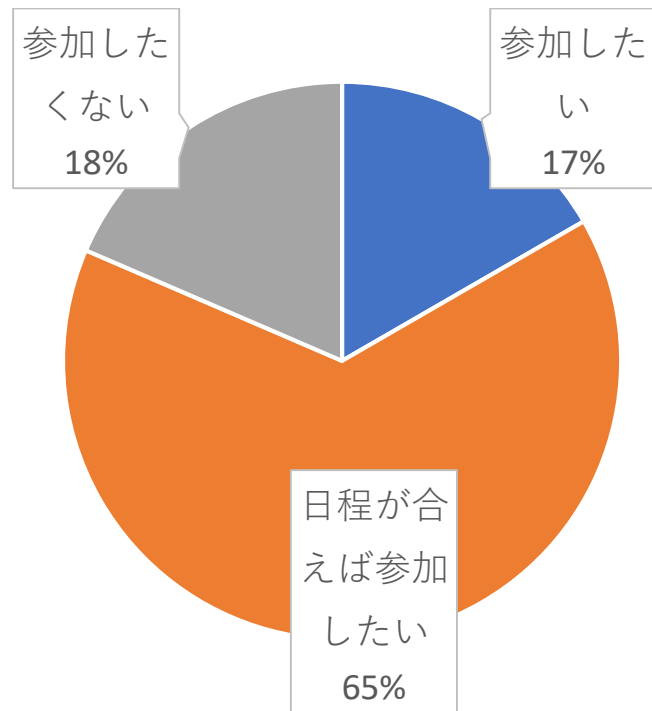
「地域コミュニティの崩壊」、「子どもの生きる力」、「超高齢化社会」の順に高かった。



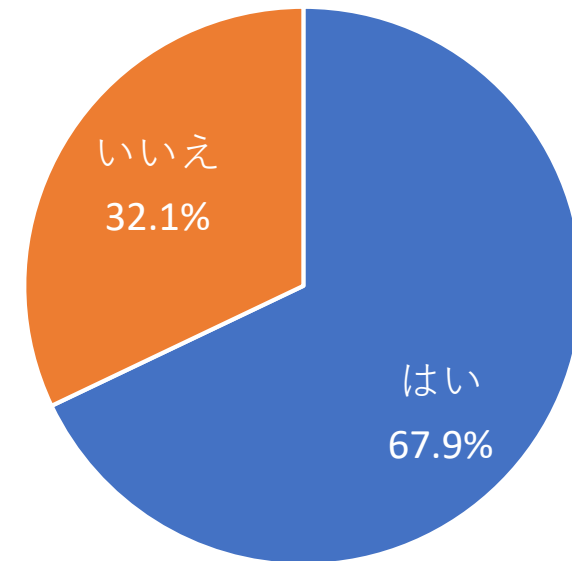
複数回答n=42

②事業所対象アンケート 人材育成事業への参加、丸亀市との協働について

82%が参加意欲があり、67.9%が協働を望んだ。



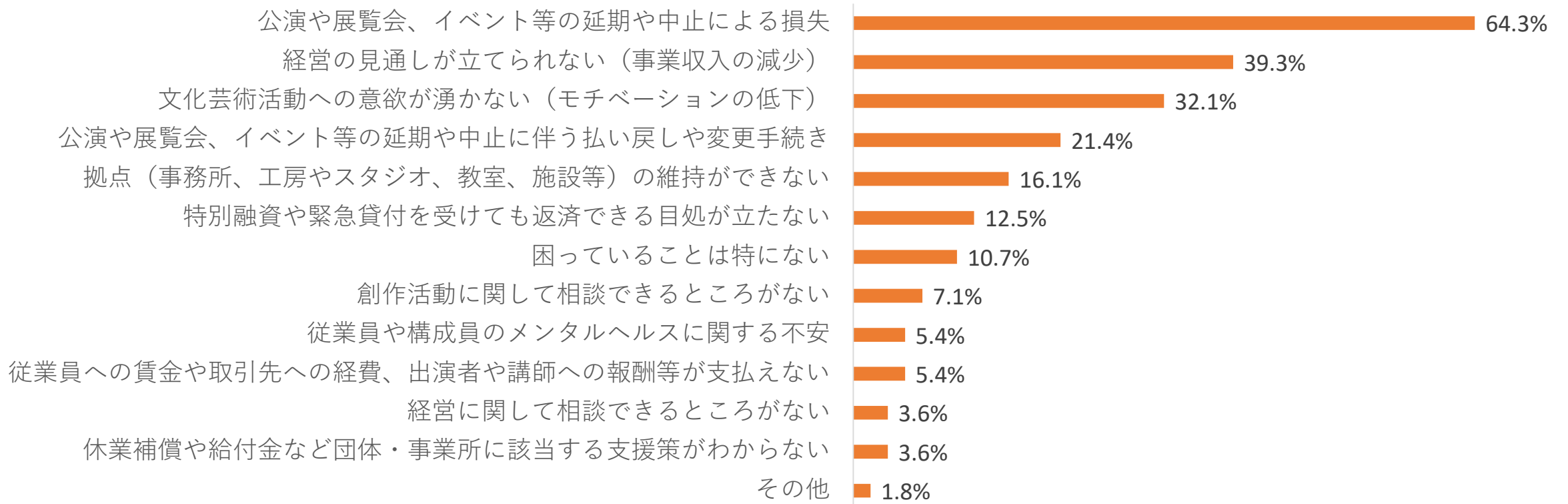
無回答を除く n=54



無回答を除く n=53

②事業所対象アンケート 新型コロナウイルスの影響で困っていることについて

「公演や展覧会、イベント等の延期や中止による損失」が64.3%と最も多かった。

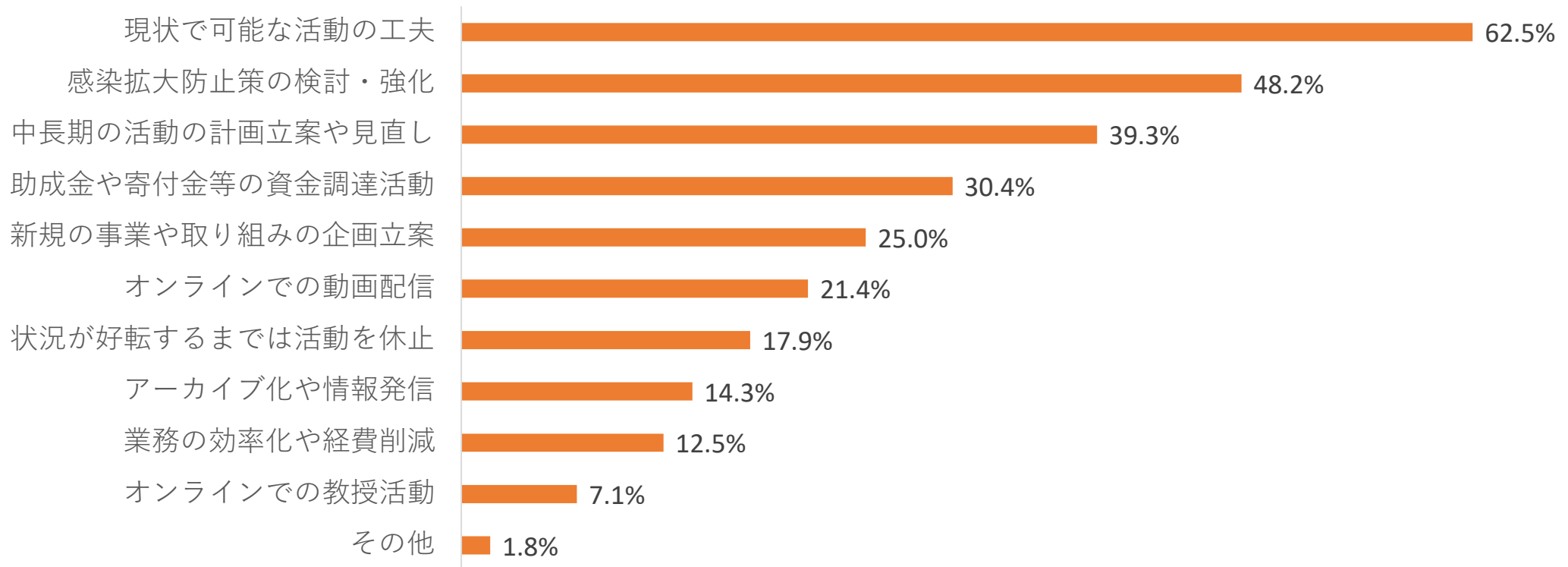


複数回答n=56

②事業所対象アンケート

新型コロナウイルスへの対策をとりながら、実践している取り組みや、予定されている取り組みについて

「現状で可能な活動の工夫」が62.5%と最も多かった。



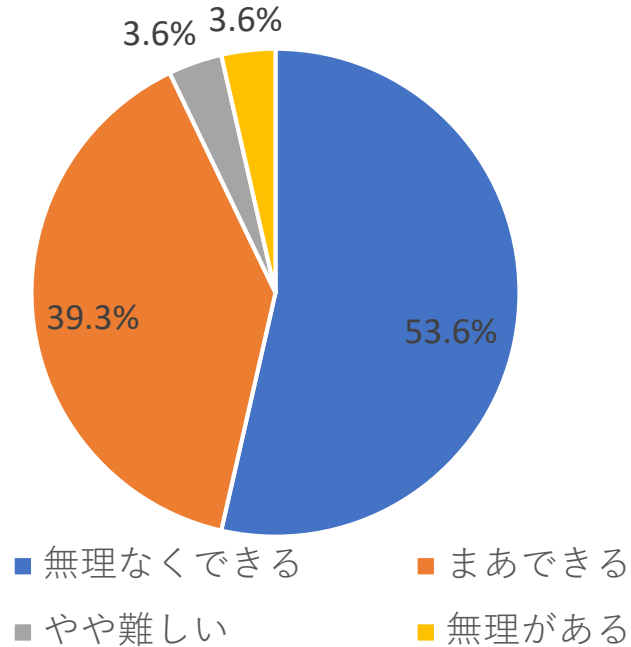
複数回答n=56

②事業所対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について①

92.9%ができると回答。

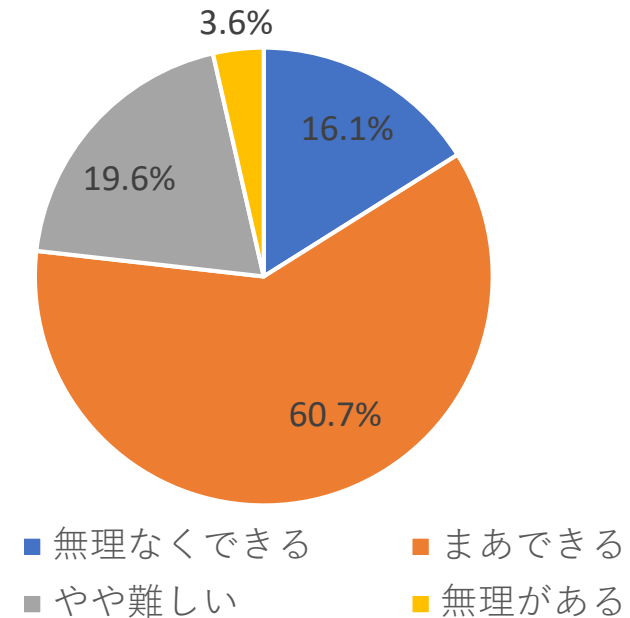
日常生活で、一人ひとりが、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの感染防止をすること



n=56

76.8%ができると回答。

練習、稽古、制作等の特定少数による活動で、3密（密集、密接、密閉）を回避すること



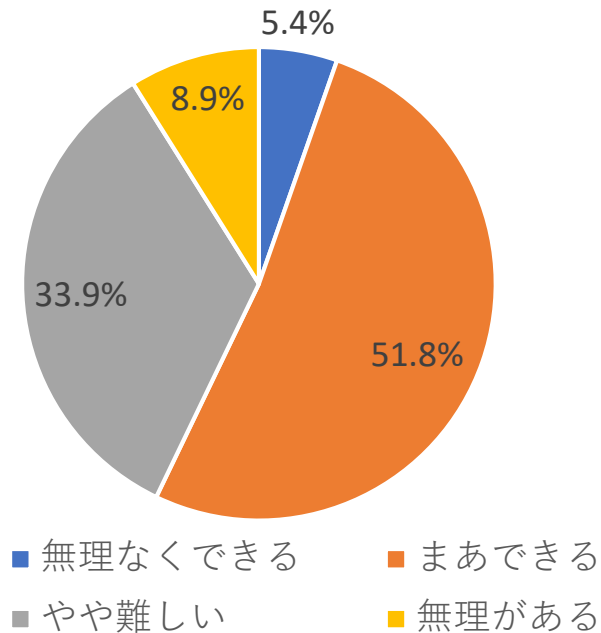
n=56

②事業所対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について②

できる、できないがそれぞれ約半数。

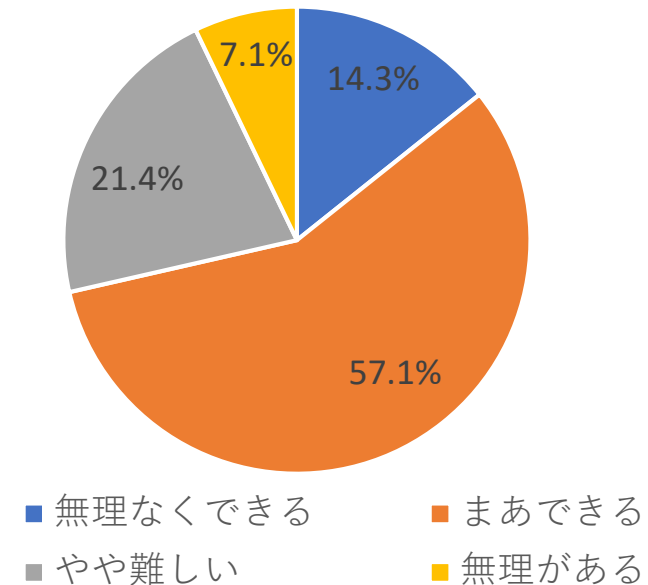
公演、発表、展示等の不特定多数に向けた活動で、人数の制限や身体的距離の確保等により密集、密接を回避すること



n=56

71.4%ができると回答。

公演、発表、展示等の不特定多数に向けた活動で、屋外での実施や、屋内のこまめな換気により、密閉を回避すること



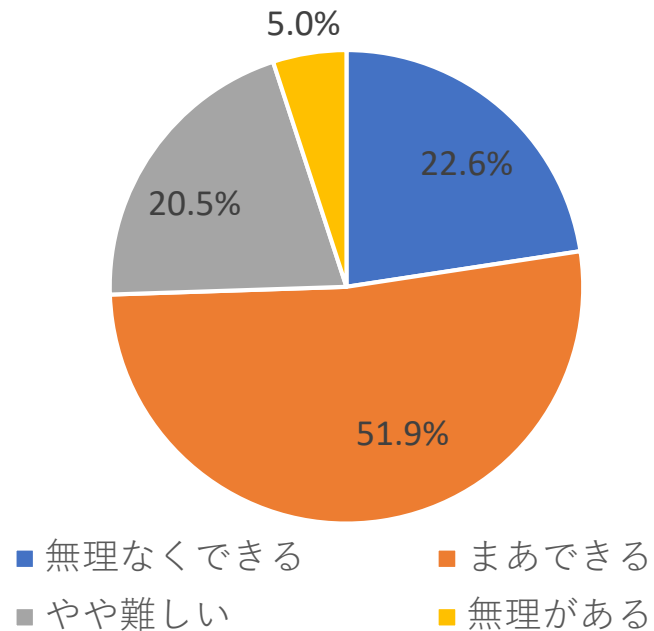
n=56

②事業所対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について③

74.5%ができると回答。

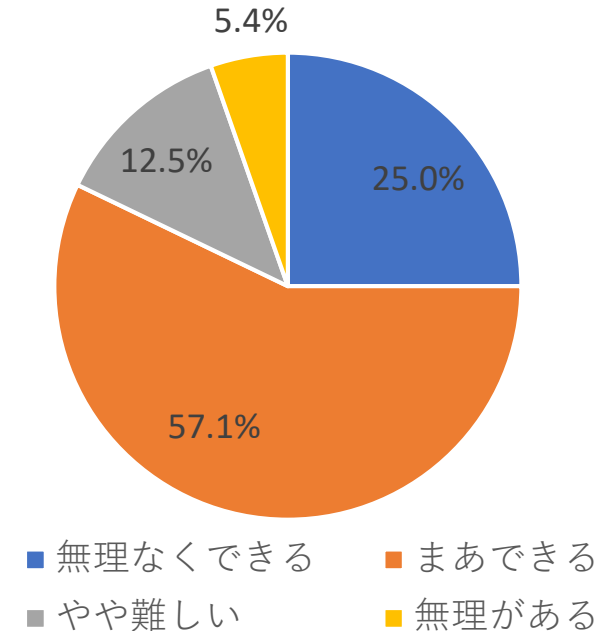
公演、発表、展示等の不特定多数に向けた活動で、検温、マスク着用、手指消毒等の協力を求めて感染予防を講じること



n=56

82.1%ができると回答。

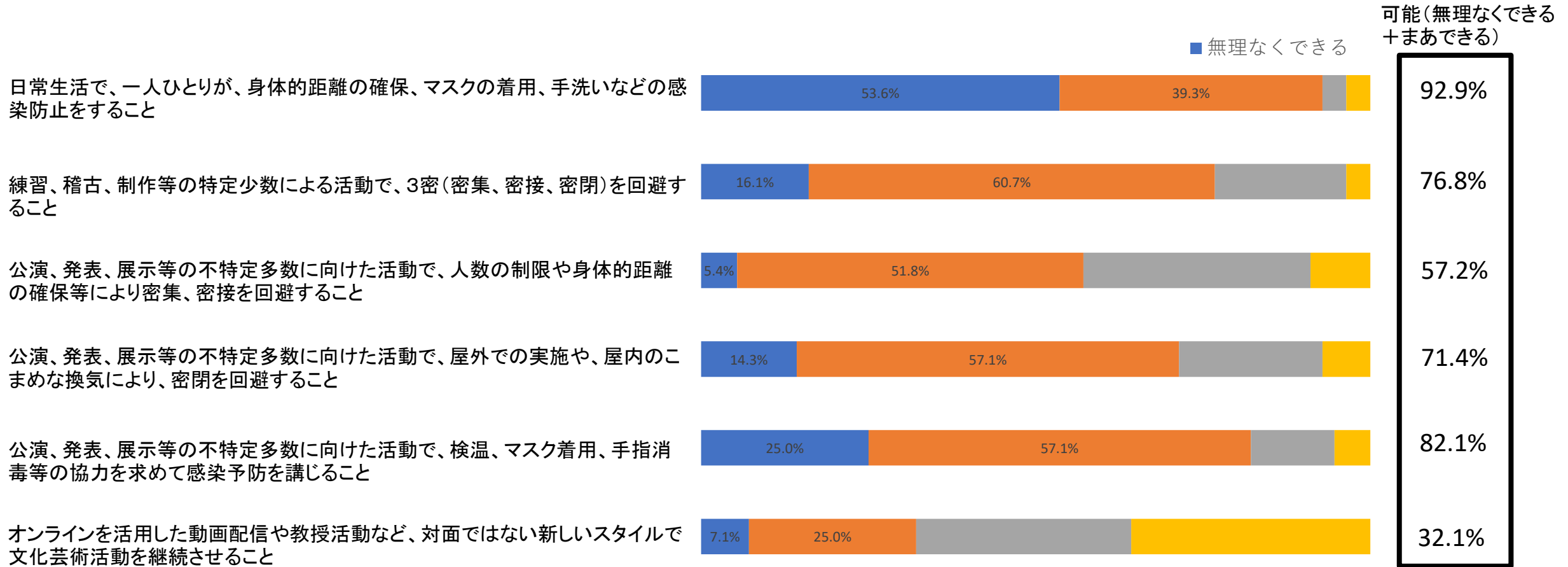
オンラインを活用した動画配信や教授活動など、対面ではない新しいスタイルで文化芸術活動を継続させること



n=56

②事業所対象アンケート

「新しい生活様式」や「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」について

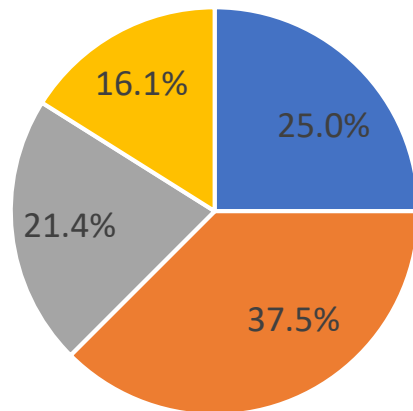


n=56

②事業所対象アンケート オンラインの活用について①

62.5%が思うと回答。

オンラインの活用によって、今まで興味や関心が薄かった人たちに文化芸術を届けることができる

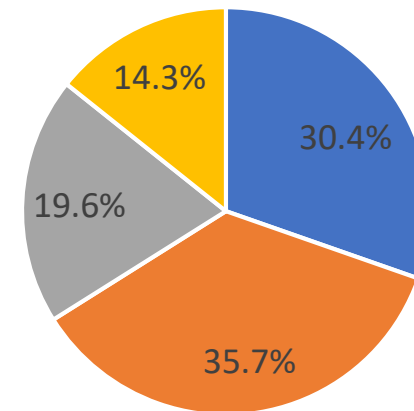


■ そう思う ■ まあそう思う
■ あまりそう思わない ■ そう思う思わない

n=56

66.1%が思うと回答。

オンラインの活用によって、文化施設に足を運ぶことが難しい障害者や高齢者等に文化芸術を届けることができる



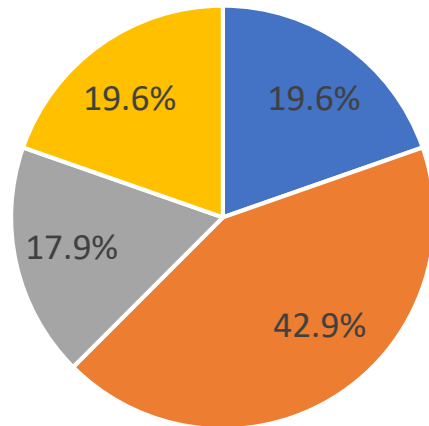
■ そう思う ■ まあそう思う
■ あまりそう思わない ■ そう思う思わない

n=56

②事業所対象アンケート オンラインの活用について②

62.5%が思うと回答。

オンラインの活用によって、文化芸術の愛好家に、より一層の興味や関心を広げたり深めたりすることができる

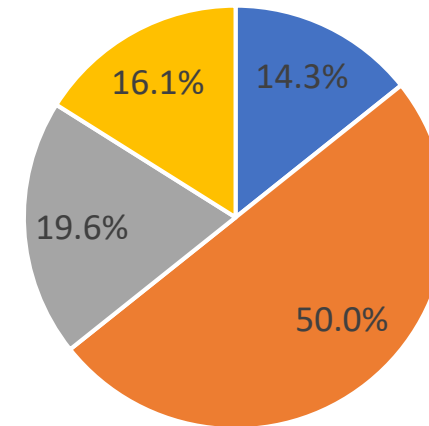


- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思う思わない

n=56

64.3%が思うと回答。

オンラインの活用によって、文化芸術の創造活動や表現方法の新しい可能性を切り開くことができる



- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思う思わない

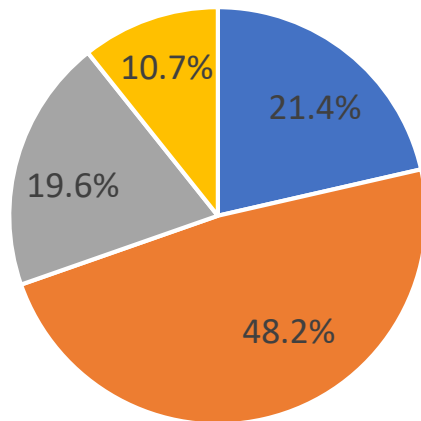
n=56

②事業所対象アンケート オンラインの活用について③

69.6%が思うと回答。

※小数第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがあります。

オンラインの活用によって、国内外の文化芸術に関する最新・最先端の情報や多様な文化芸術に触れることができる

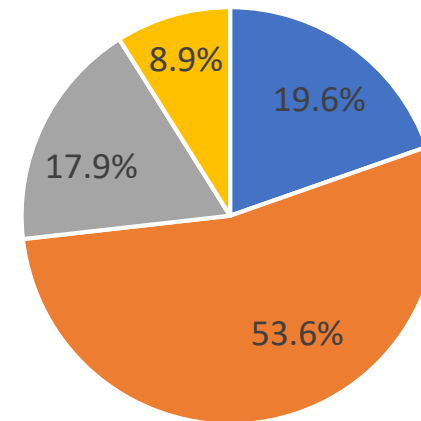


- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思う思わない

n=56

73.2%が思うと回答。

オンラインの活用によって、地域における文化芸術の独自性や地域独特の文化資源を国内外に発信することができる



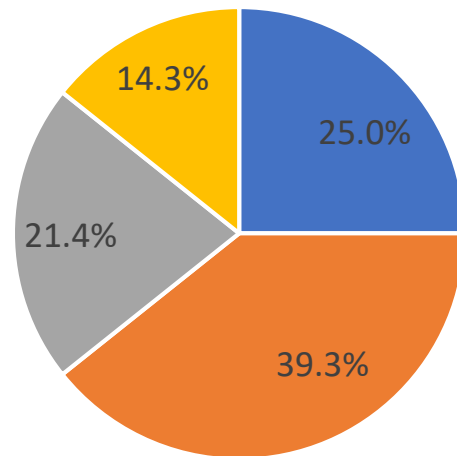
- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思う思わない

n=56

②事業所対象アンケート オンラインの活用について④

64.3%が思うと回答。

オンラインの活用は自分たちの活動には適さない



- そう思う
- まあそう思う
- あまりそう思わない
- そう思う思わない

n=56

自由記述

問10.興味関心がある社会課題 文化芸術の活用が期待できる社会課題

<個人対象>

- ・学童保育
- ・環境問題全般
- ・社会性が欠如して自己主義な人が増加
- ・新型ウイルス対策
- ・自主規制

<事業所対象>

- ・コミュニティの分散、社会の共通項の減少
- ・本来芸術とか文化とかは何か社会的な課題解決に寄与するものではありません。心のよりどころとして、無くてはならぬものです。

問11.共生社会(社会包摂)につながるアート活動について

<個人対象>

- ・取り組んでいるのとしないのとの中間。取り組みつつある。

<事業所対象>

- ・何のための劇場かがわからないので、答えようがない
- ・アートをいう言葉で表せない表現

問14.新型コロナウイルスの影響により、現在困っていること

<個人対象>

- ・合唱練習再開対策への不安
- ・新しい様式を作るのにエネルギーが余計に必要
- ・地元専門スタッフが困窮していること
- ・慰問活動ができない

<事業所対象>

- ・活動ができない

問15.新型コロナウイルスへの対策をとりながら、すでに実践している取り組みや今後予定されている取り組みについて

<個人対象>

- ・文部科学省の対策方針の順守
- ・特に無し
- ・情報収集やアートの活動への協力
- ・スタッフ支援
- ・わからない

<事業所対象>

- ・そもそもアートは現代社会に必要なのかを考えています